

目 次

【2 年前期・通年】		【2 年後期】	
社会的養護Ⅰ	355～358	子ども家庭支援論	409～411
保育内容（健康）	359～361	保育内容（環境）	412～415
保育内容（人間関係）	362～366	保育内容（言葉）	416～418
子どもと環境	367～369	保育内容（音楽表現）	419～421
乳児保育Ⅱ	370～372	特別支援教育Ⅱ	422～424
特別支援教育Ⅰ	373～376	社会的養護Ⅱ	425～427
相談支援	377～380	保育・教職実践演習	428～431
在宅保育 ＜通年＞	381～383	教育方法論	432～435
保育・教育基礎研究Ⅲ	384～386	医療保育	436～438
音楽表現Ⅳ ＜通年＞	388～390	保育・教育基礎研究Ⅳ	439～441
保育実習Ⅱ	391～392	絵画・造形	442～444
保育実習Ⅲ	393～394	ピアヘルピングの基礎	445～446
保育実習指導Ⅱ ＜通年＞	395～398		
保育実習指導Ⅲ ＜通年＞	399～401		
教育実習Ⅱ	402～403		
教育インターンシップ	404～405		
＜通年＞			
レクリエーション実技	406～408		
＜通年＞			

科目名		担当代表教員		学年	期別	形態	必選	単位数
社会的養護Ⅰ		谷川 知士		2	前期	講義	必修	2
		担当形態	単独		ナンバリング		CE2202	
		担当教員	谷川知士					

【キーワード】	【概要】
1 要保護児童	社会的養護Ⅰでは、社会的養護を学ぶ上で必要となる基礎知識について学ぶ。内容としては、①現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷、②社会的養護の基本、③社会的養護の制度と実施体系、④社会的養護の対象・形態・専門職、⑤社会的養護の現状と課題、について学習し、理解することを目的とする。
2 家庭的養護	
3 児童福祉	
4 施設養護	
5 権利擁護	

【到達目標】			
1. 現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について理解できる。			
2. 子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解できる。			
3. 社会的養護の制度や実施体系、対象や形態、関係する専門職等について理解できる。			

【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】			関連性
【知識・理解・技能】			
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。			○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。			
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。			
【思考・判断・表現】			
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。			○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。			
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。			
【関心・意欲・態度】			
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。			○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。			
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。			○

【成績評価の方法】			
成績指標	取り組み姿勢・受講態度	課題・テスト	合計
評価割合（％）	30%	70%	100

【成績評価の基準】						
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0

【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】	
毎回振り返りの時間を作り、ミニ用紙にまとめさせ、疑問・質問がある場合は次回の講義で説明、回答する。	

【教科書】	
社会的養護入門 芝野松次郎・新川泰弘・山川宏和 編著 ミネルヴァ書房、2021.10.30	

【参考書・参考資料等】	
『ひと目でわかる保育者のための児童家庭福祉データブック2019』西郷泰之・宮島清編、中央法規、2018。	
『保育実習ガイドブック』山崎喜代子・古野愛子編著、ミネルヴァ書房、2017。	

【関連科目】	
社会福祉、子ども家庭福祉、社会的養護Ⅱ、保育実習（施設）	

【受講心得】	
授業をしっかりと聞き、ノート等に学んだことをまとめ整理しておくこと。	

【備考】		
卒業必修科目、保育士資格の必修科目		
【学習項目】	担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1 オリエンテーション 社会的養護について考えよう！		(1) 学習内容 ・社会的養護の概要を知り、社会で問題となっていることについて考える。 (2) 事前学習の内容 ・講義前に目次を読んでどんな内容か把握しておくこと。(1時間) (3) 事後学習の内容 ・社会で問題となっていることを箇条書きにしてみる。(1時間)
2 第1章 現代社会における社会的養護の意義		(1) 学習内容 ・子どもと家庭を取り巻く環境、子どもの貧困、児童虐待と社会的養護について学ぶ。 (2) 事前学習の内容 ・講義前に教科書p14～20をよく読んでおくこと。(1時間) (3) 事後学習の内容 ・教科書等を見ながら、今日のポイントをまとめる。(1時間)
3 第2章 社会的養護の歴史の変遷		(1) 学習内容 ・社会的「養護」と子どもの権利「擁護」、親の「権利」について考える。 (2) 事前学習の内容 ・講義前に教科書p21～28をよく読んでおくこと。(1時間) (3) 事後学習の内容 ・教科書等を見ながら、今日のポイントをまとめる。(1時間)
4 第3章 社会的養護の基本		(1) 学習内容 ・「要保護児童対策地域協議会、児童相談所、一時保護所、児童家庭支援センターについて学ぶ。 (2) 事前学習の内容 ・講義前に教科書p29～38をよく読んでおくこと。(1時間) (3) 事後学習の内容 ・教科書等を見ながら、今日のポイントをまとめる。(1時間)
5 第3章 社会的養護の制度、法体系		(1) 学習内容 ・措置について学ぶ。児童福祉施設に入所している子ども達の施設での生活について知る。 (2) 事前学習の内容 ・講義前に教科書p39～66をよく読んでおくこと。(1時間) (3) 事後学習の内容 ・教科書等を見ながら、今日のポイントをまとめる。(1時間)
6 第4章 社会的養護の仕組み		(1) 学習内容 ・里親制度、里親支援専門相談員、特別養子縁組、ファミリーホームについて知る。 (2) 事前学習の内容 ・講義前に教科書p67～78をよく読んでおくこと。(1時間) (3) 事後学習の内容 ・教科書等を見ながら、今日のポイントをまとめる。(1時間)

7	第4章 社会的養護の実施体系	(1) 学習内容 ・明治期から高度成長期までの社会的養護の歴史について学ぶ。諸外国の社会的養護について学ぶ。 (2) 事前学習の内容 ・講義前に教科書p79～90をよく読んでおくこと。 (1時間) (3) 事後学習の内容 ・教科書等を見ながら、今日のポイントをまとめる。 (1時間)
8	第5章 家庭的養護（里親、ファミリーホーム）	(1) 学習内容 ・子どもの最善の利益、すべての子どもを社会全体で育むことについて学ぶ。 (2) 事前学習の内容 ・講義前に教科書p91～96をよく読んでおくこと。 (1時間) (3) 事後学習の内容 ・教科書等を見ながら、今日のポイントをまとめる。 (1時間)
9	第5章 家庭的養護（養子縁組）	(1) 学習内容 ・家庭的養護と個別化、発達を保障する、自立を支える、回復をめざした支援、家族との連携、協働、パーマネンシーケア、ライフサイクルを見通した支援について学ぶ。 (2) 事前学習の内容 ・講義前に教科書p97～112をよく読んでおくこと。 (1時間) (3) 事後学習の内容 ・教科書等を見ながら、今日のポイントをまとめる。 (1時間)
10	第6章 社会的養護の実際①（児童養護施設）	(1) 学習内容 ・アタッチメントとホスピタリズム、ノーマライゼーション等の心理的支援や家族の支援について学ぶ。 (2) 事前学習の内容 ・講義前に教科書p113～134をよく読んでおくこと。 (1時間) (3) 事後学習の内容 ・教科書等を見ながら、今日のポイントをまとめる。 (1時間)
11	第6章 社会的養護の実際①（児童自立支援施設、自立支援ホーム）	(1) 学習内容 ・社会的養護全体の体系、養育形態、しくみ、施設や里親家庭での子ども達の生活費について学ぶ。 (2) 事前学習の内容 ・講義前に教科書p135～144をよく読んでおくこと。 (1時間) (3) 事後学習の内容 ・教科書等を見ながら、今日のポイントをまとめる。 (1時間)
12	第7章 社会的養護の実際②（乳児院、母子生活支援施設）	(1) 学習内容 ・保育士の役割、心理職の役割、だみりーソーシャルワーカーの役割、その他の専門職の役割について学ぶ。 (2) 事前学習の内容 ・講義前に教科書p145～156をよく読んでおくこと。 (1時間) (3) 事後学習の内容 ・教科書等を見ながら、今日のポイントをまとめる。 (1時間)
13	第7章 社会的養護の実際②（児童心理治療施設）	(1) 学習内容 ・生活のルール、施設や里親家庭で起こりやすい人権侵害、被措置児童等虐待をなくす取り組みについて学ぶ。 (2) 事前学習の内容 ・講義前に教科書p157～164をよく読んでおくこと。 (1時間) (3) 事後学習の内容 ・教科書等を見ながら、今日のポイントをまとめる。 (1時間)

1 4	第8章 社会的養護の専門職		(1) 学習内容 - 施設の小規模化、子どもの自立支援とアフターケアの充実、家庭への支援の充実、地域子育て支援と児童虐待の予防、里親と共に子どもを支えることについて学ぶ。 (2) 事前学習の内容 - 講義前に教科書p165～178をよく読んでおくこと。(1時間) (3) 事後学習の内容 - 教科書等を見ながら、今日のポイントをまとめる。(1時間)
1 5	第9章 社会的養護の施設等の遠泳管理		(1) 学習内容 - これまでの授業で学んだことを総復習する。 (2) 事前学習の内容 - 講義前に教科書のこれまで学んだところをよく読んでおくこと。(1時間) (3) 事後学習の内容 - 教科書等を見ながら、今日のポイントをまとめる。(1時間)
1 6	試験		試験範囲は事前に授業内で伝える。

科目名		担当代表教員		学年	期別	形態	必選	単位数
保育内容（健康）		谷川 裕子		2	前期	演習	選択	1
		担当形態	単独		ナンバリング		CE2301	
		担当教員	谷川 裕子					

【キーワード】		【概要】						
1	保育内容	子どもの健康な心と体を育むための援助法を学ぶ。そのためには領域「健康」ねらいや内容を理解し、保育の場を想定した計画と実践、振り返りを行う中で教材活用を具体的に学ぶ。また身体活動を促す保育者として子どもの多様な動きを体験させ、子どもから動きを引き出せるような指導法を学ぶ。また様々な情報機器を活用することは学習情報を拡大するため、自身の活動意欲へと結びつける、そのため、情報機器（IPAD等）を積極的に使用し、自身または他者の動きなど情報を客観的評価する方法等も学ぶ。						
2	健康							
3	発育発達							
4	指導法							
5	身体活動							
【到達目標】								
1. 子どもの発育発達を見通した領域「健康」としての教材を活用できる。								
2. 子どもの発育発達を見通した指導案が作成できる。								
3. 模擬保育を通して自身の課題発見、課題解決ができる。								
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】								関連性
【知識・理解・技能】								
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。								
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。								
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。								
【思考・判断・表現】								
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。								
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。								
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。								
【関心・意欲・態度】								
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。								
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。								
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。								
【成績評価の方法】								
成績指標		指導法・実践力		課題提出		取り組む姿勢		合計
評価割合（％）		50%		30%		20%		100
【成績評価の基準】								
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下			
評語	S	A	B	C	E	F		
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0		
【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】								
提出された課題において、返却をもって授業時に行う。								
【教科書】								
『すこやかな子どもの心と体を育む 運動遊び』井上勝子他 建帛社								
【参考書・参考資料等】								
『新訂 豊かな感性を育む表現遊び』井上勝子他 ぎょうせい								
『幼稚園教育要領解説』文部科学省（フレーベル館）								
『保育所保育指針解説書』厚生労働省（フレーベル館）								
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府他（フレーベル館）								

【関連科目】		
「子どもと健康」		
【受講心得】		
体を使つての授業のため、実習着での参加とする。また装飾品はつけてこない。体験を重視とするため遅刻、欠席をしない。模擬保育が中心となるため身体活動を行う保育者としての身なりや立ち居振る舞いを心がける。		
【備考】		
幼稚園教諭免許必修，保育士資格必修		
【学習項目】	担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1	オリエンテーション（身体活動の意義・ICT活用の意義）	本授業の到達目標の確認と，全体の授業内容を伝達する。保育内容「健康」のねらいと内容について解説を行う。 【事前学習】1年次に受講した「子どもと健康」の学習内容を振り返る。また指定された教科書を用意する（30分） 【事後学習】課題を行う（30分）
2	集団遊びの計画と実際	運動遊びの意義や効果を解説し，「運動遊びの指導計画」をグループごとに立てるとともに実践を行う。 【事前学習】幼児期運動指針を読んでおく（1時間） 【事後学習】実践における課題を見出す（30分）
3	集団遊びの実際と振り返り（ipad動画により自身・他者の動きを確認）	他グループの実践の考察を行い、自己課題の解決を図る。集団遊びの意義を伝えるようになる。 【事前学習】幼児期運動指針を読んでおく（1時間） 【事後学習】次週の指導案課題（素材）の遊びの実践例を調べるまたは考えておく（1時間）
4	素材を使った遊びの計画と実際	素材遊びの特徴を生かした指導案作成を行う。 【事前学習】素材遊びを考えておく（30分） 【事後学習】素材遊びの実践例を授業で学習したことを記述しておく（1時間）
5	素材を使った遊びの実際と振り返り	他グループの実践の考察を行い、自己課題の解決を図る。素材遊びの発達に即した遊びを伝えるようになる。 【事前学習】授業の内容確認を行う（30分） 【事後学習】次週の指導案課題（小型遊具）の遊びの実践例を調べるまたは考えておく（1時間）
6	小型遊具を使った遊びの計画と実際	小型遊具を使った遊びの特徴を生かした指導案作成を行う、またグループで実践する。 【事前学習】教科書 p. 56～を見ておく（30分） 【事後学習】小型遊具での遊びを授業で学習したことを記述しておく。（1時間）
7	小型遊具を使った遊びの実際と振り返り	他グループの実践の考察を行い、自己課題の解決を図る。小型遊具の特性を伝えるようになる。 【事前学習】授業の内容確認を行う（30分） 【事後学習】次週の指導案課題（大型遊具）の遊びの実践例を調べるまたは考えておく（1時間）
8	大型遊具を使った遊びの計画と実際	大型遊具の特徴を生かした指導案作成を行う、大型遊具の際の安全性について解説する。 【事前学習】教科書を p. 82～を見ておく（30分） 【事後学習】大型遊具遊びの実践例を授業で学習したことを記述しておく（1時間）

9	大型遊具を使った遊びの実際と振り返り		他グループの実践の考察を行い、自己課題の解決を図る。大型遊具遊びの安全性について伝えられるようになる。 【事前学習】授業の内容確認を行う（30分） 【事後学習】次週の指導案課題（リズムダンス・体操）の情報収集しておく（30分）
10	リズムダンス・リズム体操の計画と実際		リズムダンス・リズム体操の指導を実践する。 【事前学習】授業の内容確認を行う（30分） 【事後学習】自己課題を見出す（30分）
11	リズムダンス・リズム体操の実際と振り返り		他グループの実践の考察を行い、自己課題の解決を図る。リズムダンス・リズム体操の効果的な指導法を理解する。 【事前学習】：授業の内容確認を行う（30分） 【事後学習】：他グループの作品を記述しておく（1時間）
12	運動会の計画と実際(情報機器で入手した園児の動画を分析)		特別活動における運動遊びの意義を解説する。また実際のこどもの発表を動画で観察する。 【事前学習】教科書p.169を見ておく（30分） 【事後学習】授業で見聞きしたもの以外で特別活動について調べる（1時間）
13	運動会の実際と振り返り		運動会の企画・準備・実際を行い、運営の在り方を理解する。 【事前学習】授業の内容確認を行う（30分） 【事後学習】実際の反省を記述する（30分）
14	イメージから身体表現遊びの計画と実際		身体表現遊びから動きを引きだす指導法を学ぶ、幼児期の身体表現の意義を理解し、指導を計画し実践する。 【事前学習】教科書・参考図書を参照しておく（0.5時間） 【事後学習】指導法より動きの引き出し法について整理する（1時間）
15	イメージから身体表現遊びの実際と振り返り		他者グループから動きの効果的な引き出しを学ぶ。 【事前学習】授業の内容確認を行う（30分） 【事後学習】全授業の課題とまとめを提出する（1時間半）

科目名		担当代表教員		学年	期別	形態	必選	単位数
保育内容（人間関係）		飯塚 恭一郎		2	前期	演習	選択	1
		担当形態	単独	ナンバリング			CE2302	
		担当教員	飯塚 恭一郎（実務家）					

【キーワード】	【概要】
1 保育内容	・ 保育内容「人間関係」領域について、保育エピソード事例をもとに保育現場における人間関係の有り様を考察していく。 ・ 保育現場での観察事例を保育実習日誌の記述内容から抽出し、個人と個人あるいは個人と集団などさまざまな人との関係性について考察を深め理解をしていく。 ・ さまざまな人との関係について、保育者がどのようなスタンスとねらいを持ってかわっていくべきか、小グループでのディスカッションを通して多面的な視点で保育の方法を考えていき、その考えを言語化し伝える。
2 人間関係	
3 信頼関係	
4 個と集団	
5 相互理解	

【授業のテーマ及び到達目標】				
1. 保育現場におけるさまざまな人間関係を、当事者の心情に寄り添うことを大切にしなが客観的にとらえることができる。				
2. 人間関係の解釈は答えはひとつでないことを前提に、それぞれの立場を尊重しながらベターな選択ができるためのいくつかの視点を持って関係性を理解できる。				
3. 保育現場の人間関係を、そこにかかわる保育者としてコーディネートや仲介をするためのいくつかの方法を視聴覚機器や視覚教材を使って説明することができる。				

【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】				関連性
【知識・理解・技能】				
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。				
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。				
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。				
【思考・判断・表現】				
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。				○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。				○
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。				
【関心・意欲・態度】				
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。				○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。				
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。				

【成績評価の方法】				
成績指標	小テスト・レポート	課題・演習	受講態度	合計
評価割合（％）	30%	45%	25%	100

【成績評価の基準】						
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0

【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】	
授業内の課題や演習については授業内で説明、講評をする。試験については模範解答を提示する。	

【教科書】	
毎回プリント資料教材を配布 『幼稚園教育要領解説』 文部科学省 フレーベル館 『保育所保育指針解説』 厚生労働省 フレーベル館 『幼児連携型認定こども園教育・保育要領解説』 内閣府他 フレーベル館	

【参考書・参考資料等】	
『保育と人間関係』 矢野正 柏まり編著（嵯峨野書院）	

【関連科目】	
「子どもと人間関係」「保育原理」「保育内容総論」	

【受講心得】	
他の学生と講師に迷惑と不快を及ぼし授業進行を妨げる「私語」や「不遜な受講態度」は控えること。	

【備考】 幼稚園教諭免許必修 保育士資格必修			
【学習項目】		担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1	授業ガイダンス		【学習内容】 シラバスを元に授業の概要、目標、スケジュール、評価方法等の説明を受け授業の内容を知る。 【事前学習】 事前にシラバスに目を通しておく。（0.5時間） 【事後学習】 シラバスや授業内で配布されたプリント資料を参照して本授業の概要と目標について理解を深める。（1時間）
2	子どもと大人（保育者）の関係① ー保育エピソードⅠ（年少児）ー		【学習内容】 年少児の保育エピソード事例を題材に、子どもと保育者（実習生）といった子ども対大人の「一対一」の関係性について、考察をする。 【事前学習】 授業テーマに沿った保育事例を、実習日誌記述内容を読み返したり経験を振り返るなどして、子ども対大人の「一対一」の関係性についてあらかじめイメージをつけておく。（0.5時間） 【事後学習】 自分が考察した内容についてその文章を読み返すなどして、自分の考察が他者に伝わるかどうかの検証をしておく。（1時間）
3	子どもと大人（保育者）の関係② ー保育エピソードⅠ（年少児）ー		【学習内容】 前回授業で取り上げた保育エピソードの考察について、他の学生の意見や考察内容を参照し自分の考察内容と比較検討を行う。また、そこから第2段階の考察を巡らし、子ども対大人の「一対一」の関係性について理解を深める。 【事前学習】 自分の考察内容を再度読み返し、自分の考えを整理しておく。（0.5時間） 【事後学習】 自分の考察内容と他の学生の意見や考察との比較検討から得られた学びを自分なりに整理しておく。（1時間）
4	子ども同士の関係① ー保育エピソードⅡ（年少児）ー		【学習内容】 年少児の保育エピソード事例を題材に、子どもと保育者（実習生）といった子ども対大人の「一対一」の関係性について、考察をする。 【事前学習】 授業テーマに沿った保育事例を、前回授業の保育エピソードや実習日誌記述内容を読み返したり経験を振り返るなどして、子ども対大人の「一対一」の関係性についてあらかじめイメージをつけておく。（0.5時間） 【事後学習】 自分が考察した内容についてその文章を読み返すなどして、自分の考察が他者に伝わるかどうかの検証をしておく。（1時間）
5	子ども同士の関係② ー保育エピソードⅡ（年少児）ー		【学習内容】 前回授業で取り上げた保育エピソードの考察について、他の学生の意見や考察内容を参照し自分の考察内容と比較検討を行う。また、そこから第2段階の考察を巡らし、子ども対大人の「一対一」の関係性について理解を深める。 【事前学習】 自分の考察内容を再度読み返し、自分の考えを整理しておく。（0.5時間） 【事後学習】 自分の考察内容と他の学生の意見や考察との比較検討から得られた学びを自分なりに整理しておく。（1時間）

6	気のあう仲間集団の関係① ー保育エピソードⅢ（年中児）ー	【学習内容】 年中児の保育エピソード事例を題材に、気のあう仲間集団の関係性について、考察をする。 【事前学習】 授業テーマに沿った保育事例を、前回授業の保育エピソードや実習日誌記述内容を読み返したり経験を振り返るなどして、子どもと子どもの仲間集団の関係性についてあらかじめイメージをつけておく。（0.5時間） 【事後学習】 自分が考察した内容についてその文章を読み返すなどして、自分の考察が他者に伝わるかどうかの検証をしておく。（1時間）
7	気のあう仲間集団の関係② ー保育エピソードⅢ（年中児）ー	【学習内容】 前回授業で取り上げた保育エピソードの考察について、他の学生の意見や考察内容を参照し自分の考察内容と比較検討を行う。また、そこから第2段階の考察を巡らし、気のあう仲間集団の関係性について理解を深める。 【事前学習】 自分の考察内容を再度読み返し、自分の考えを整理しておく。（0.5時間） 【事後学習】 自分の考察内容と他の学生の意見や考察との比較検討から得られた学びを自分なりに整理しておく。（1時間）
8	個人と集団の関係① ー保育エピソードⅣ（年長児）ー	【学習内容】 年長児の保育エピソード事例を題材に、個人と集団の関係性について、考察をする。 【事前学習】 授業テーマに沿った保育事例を、前回授業の保育エピソードや実習日誌記述内容を読み返したり経験を振り返るなどして、個人と集団の関係性についてあらかじめイメージをつけておく。（0.5時間） 【事後学習】 自分が考察した内容についてその文章を読み返すなどして、自分の考察が他者に伝わるかどうかの検証をしておく。（1時間）
9	個人と集団の関係② ー保育エピソードⅣ（年長児）ー	【学習内容】 前回授業で取り上げた保育エピソードの考察について、他の学生の意見や考察内容を参照し自分の考察内容と比較検討を行う。また、そこから第2段階の考察を巡らし、個人と集団の関係性について理解を深める。 【事前学習】 自分の考察内容を再度読み返し、自分の考えを整理しておく。（0.5時間） 【事後学習】 自分の考察内容と他の学生の意見や考察との比較検討から得られた学びを自分なりに整理しておく。（1時間）
10	気になる子どもと 周囲の子どもとの関係① ー保育エピソードⅤ（年長児）ー	【学習内容】 年長児の保育エピソード事例を題材に、いわゆる「気になる子どもとクラス集団の関係性について、考察をする。 【事前学習】 授業テーマに沿った保育事例を、前回授業の保育エピソードや実習日誌記述内容を読み返したり経験を振り返るなどして、個人と集団の関係性についてあらかじめイメージをつけておく。（0.5時間） 【事後学習】 自分が考察した内容についてその文章を読み返すなどして、自分の考察が他者に伝わるかどうかの検証をしておく。（1時間）

1 1	気になる子どもと 周囲の子どもとの関係② －保育エピソードⅤ（年長児）－	【学習内容】 前回授業で取り上げた保育エピソードの考察について、他の学生の意見や考察内容を参照し自分の考察内容と比較検討を行う。また、そこから第2段階の考察を巡らし、気になる子どもとクラス集団の関係性について理解を深める。 【事前学習】 自分の考察内容を再度読み返し、自分の考えを整理しておく。 (0.5時間) 【事後学習】 自分の考察内容と他の学生の意見や考察との比較検討から得られた学びを自分なりに整理しておく。(1時間)
1 2	気になる子どもと 周囲の子どもとの関係③ －保育エピソードⅤ（年長児）－	【学習内容】 保育エピソードⅤをもとに、気になる子どもを取り巻くクラス運営について、保育者に求められる専門性とはなにかを考察する。 【事前学習】 実習日誌に目を通すなど、実体験として気になる子どもとの関わった経験についてあらかじめ振り返っておく。(0.5時間) 【事後学習】 「自分だったらどうするか」というスタンスで、自分なりの考察をして考えをまとめておく。(1時間)
1 3	気になる子どもと 周囲の子どもとの関係④ －保育現場での実践事例Ⅰ－	【学習内容】 気になる子どもとその子どもを取り巻くクラス運営について、具体的な実践事例をもとに、保育の実際を学ぶ。 【事前学習】 実習日誌に目を通すなど、実体験として気になる子どもとの関わった経験についてあらかじめ振り返っておく。 (0.5時間) 【事後学習】 配布資料等を再読し、学びを深める。(1時間)
1 4	気になる子どもと 周囲の子どもとの関係④ －保育現場での実践事例Ⅱ－	【学習内容】 気になる子どもとその子どもを取り巻くクラス運営について、具体的な実践事例をもとに、保育の実際を学ぶ。 【事前学習】 実習日誌に目を通すなど、実体験として気になる子どもとの関わった経験についてあらかじめ振り返っておく。 (0.5時間) 【事後学習】 配布資料等を再読し、学びを深める。(1時間)
1 5	授業の振り返りとまとめ	【学習内容】 授業内で扱った保育現場での子どもを取り巻く人間関係の4つの事例からの学びを振り返り、保育内容における「人間関係」について理解を深める。 【事前学習】 これまでの授業で作成した発表資料はプリント配布資料を整理し、全体を概観しておく。(0.5時間) 【事後学習】 授業の学びをもとに、保育の中で子どもの人間関係について「自分目線」で何ができるか何を考えていったら良いかを考える。(1時間)

【実務家教員】		
フリガナ	イイヅカ キョウイチロウ	こども学科 准教授
氏 名	飯塚 恭一郎	
実 務 経 験		
【実務経験】 幼稚園における教諭や保育主任などの経験を活かし、それぞれの事例を基に、保育者の役割・仕事内容や子どもを取り巻く人間関係に関する授業や保育・教育課程に関する授業、実習指導等を行っている。 【実務経験を生かした授業科目】 「保育原理」、「子どもと人間関係」、「保育内容（人間関係）」、「保育・教育課程論」、「教育実習指導」、「保育・教育基礎研究Ⅰ」、「保育・教育基礎研究Ⅱ」、「保育・教職実践演習」		

科目名		担当代表教員		学年	期別	形態	必選	単位数
子どもと環境		川崎 徳子		2	前期	演習	選択	1
		担当形態	単独		ナンバリング		CE2203	
		担当教員	川崎徳子					

【キーワード】	【概要】
1 環境構成	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育保育要領を基に領域「環境」のねらい及び内容について理解し、環境を通して行う教育・保育の意義や役割について考えていく。また、子どもを取り巻く環境（物的・人的・自然・社会的）について知識を深め、環境の視点や感性を育む。環境における専門的な知識を基に、保育内容や指導上の留意点、環境構成を計画・評価できるようにすることを目的とする。
2 物的・人的環境	
3 自然・社会的環境	
4 保育内容	
5 感性	

【到達目標】	
1. 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育保育要領に示されている領域「環境」のねらい及び内容が理解できる。	
2. 領域「環境」の意義や役割、子どもを取り巻く環境について説明することができる。	
3. 環境を通して行う教育・保育の具体的な保育内容、指導上の留意点について構想し、評価することができる。	

【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】	関連性
【知識・理解・技能】	
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。	○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。	
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。	○
【思考・判断・表現】	
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。	
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。	
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。	○
【関心・意欲・態度】	
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。	○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。	
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。	○

【成績評価の方法】				
成績指標	レポート	課題・小テスト	受講態度	合計
評価割合（％）	40	40	20	100

【成績評価の基準】						
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0

【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】	
提出されたレポート・課題・小テストについては、授業内で説明・講評する。	

【教科書】	
『領域「環境」』無藤隆監修 福元真由美編者代表 萌文書林	

【参考書・参考資料等】	
『幼稚園教育要領解説』文部科学省 フレーベル館 『保育所保育指針解説』厚生労働省 フレーベル館	
『幼保連携型認定こども園教育保育要領解説 内閣府他 フレーベル館	
その他の参考図書・絵本は随時紹介、資料は適宜配布する。	

【関連科目】	
「保育内容総論」「保育内容（環境）」「子ども理解の方法」	

【受講心得】	
専門的な知識・技術及び専門職としての資質の向上を目的とし、主体的な学習態度で臨むこと。また、到達目標を常に意識しておくこと。事例や視聴覚教材の活用を通じた演習においては、意欲的に取り組むこと。	

【備考】	
幼稚園教諭免許必修、保育士資格必修	

【学習項目】		学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1	オリエンテーション 子どもを取り巻く環境の変化について	〈学習内容〉授業概要、到達目標等、オリエンテーションを行う。また、子どもを取り巻く環境の変化に触れ、環境を通した教育・保育の大切さを考える。 〈事前学習〉シラバス（講義要項）を読んでおくこと。（30分） 〈事後学習〉授業内での学びや気づきをまとめておくこと。（30分）
2	領域「環境」について①	〈学習内容〉幼稚園教育要領、保育所保育指針等に示されている「環境」のねらいや内容について学ぶ。また、具体的な事例を通して、内容の理解を深める。 〈事前学習〉幼稚園教育要領及び保育所保育指針等を読んでおくこと。（30分） 〈事後学習〉授業内での学びや気づきをまとめておくこと。（30分）
3	領域「環境」について②	〈学習内容〉幼稚園教育要領、保育所保育指針等に示されている「環境」のねらいや内容について学ぶ。また、具体的な事例を通して内容の理解を深める。 〈事前学習〉幼稚園教育要領及び保育所保育指針等を読んでおくこと。（30分） 〈事後学習〉授業内での学びや気づきをまとめておくこと。（30分）
4	環境を通して行う教育・保育の意義や役割について	〈学習内容〉環境を通して行う教育・保育の基本、意義や役割について考えていく。 〈事前学習〉幼稚園教育要領及び保育所保育指針等、テキストで指定する箇所を読んでおくこと。（30分） 〈事後学習〉授業内での学びや気づきをまとめておくこと。（30分）
5	子どもの身近な環境①生活と環境	〈学習内容〉幼稚園、保育所、認定こども園等における子どもが過ごす生活と環境構成について、具体的に考えていく。 〈事前学習〉テキストの指定する箇所を読んでおくこと。（30分） 〈事後学習〉授業内での学びや気づきをまとめておくこと。（30分）
6	子どもの身近な環境②遊びと環境（乳児）	【学習内容】幼稚園、保育所、認定こども園等における乳児の遊びと環境構成について、具体的に考えていく。 〈事前学習〉テキストの指定する箇所を読んでおくこと。（30分） 〈事後学習〉授業内での学びや気づきをまとめておくこと。（30分）
7	子どもの身近な環境③遊びと環境（幼児）	【学習内容】幼稚園、保育所、認定こども園等における幼児の遊びと環境構成について、具体的に考えていく。 〈事前学習〉テキストの指定する箇所を読んでおくこと。（30分） 〈事後学習〉授業内での学びや気づきをまとめておくこと。（30分）
8	子どもの身近な環境④自然環境	〈学習内容〉幼稚園、保育所、認定こども園等における自然・社会的環境について、具体的に考えていく。 〈事前学習〉テキストの指定する箇所を読んでおくこと。（30分） 〈事後学習〉授業内での学びや気づきをまとめておくこと。（30分）
9	子どもの身近な環境⑤人的環境	〈学習内容〉幼稚園、保育所、認定こども園等における人的環境について、具体的に考えていく。 〈事前学習〉テキストの指定する箇所を読んでおくこと。（30分） 〈事後学習〉授業内での学びや気づきをまとめておくこと。（30分）
10	子どもの身近な環境⑥文字・記号・数量	〈学習内容〉幼稚園、保育園、認定こども園等における文字や記号等の環境について、具体的に考えていく。 〈事前学習〉テキストの指定する箇所を読んでおくこと。（30分） 〈事後学習〉授業内での学びや気づきをまとめておくこと。（30分）

11	保育の計画と保育の実際①	〈学習内容〉これまでの学びを活用し、実際に保育の計画を立案する。 〈事前学習〉計画の立案の内容について考えておくこと。(30分) 〈事後学習〉授業内での学びや気づきをまとめておくこと。(30分)
12	保育の計画と保育の実際②	〈学習内容〉これまでの学びを活用し、実際に保育の計画を立案する。 〈事前学習〉計画の立案の内容について考えておくこと。(30分) 〈事後学習〉授業内での学びや気づきをまとめておくこと。(30分)
13	保育の計画と保育の実際③	〈学習内容〉これまでの学びを活用し、実際に保育の計画を立案する。 〈事前学習〉計画の立案の内容について考えておくこと。(30分) 〈事後学習〉授業内での学びや気づきをまとめておくこと。(30分)
14	保育の計画と評価の視点	〈学習内容〉保育計画の評価の視点に触れ、自身の計画を振り返る。 〈事前学習〉計画の立案の内容について振り返りをしておくこと。(30分) 〈事後学習〉授業内での学びや気づきをまとめておくこと。(30分)
15	領域「環境」のまとめ	〈学習内容〉これまでの学びをまとめる。 〈事前学習〉これまでの学習内容について、振り返りをしておくこと。(30分) 〈事後学習〉授業内での学びや気づきをまとめておくこと。(30分)

科目名		担当代表教員		学年	期別	形態	必選	単位数
乳児保育Ⅱ		砥上 あゆみ		2	前期	演習	選択	1
		担当形態	単独	ナンバリング			CE2308	
		担当教員	砥上 あゆみ					

【キーワード】	【概要】
1 受容	・乳児保育Ⅰでの学びを基礎とし、乳児保育の基本、保育者としての援助・配慮事項等を具体的に考えていく。また、子どもの育ちを保障する保育内容や方法および環境構成ついて理解を深め、計画や実践できることを目的とする。
2 応答	
3 保育環境	
4 養護	
5 保育内容	

【到達目標】				
1. 乳児保育の基本、保育者としての援助・配慮事項等を具体的に考えることができる。				
2. 3歳未満児の発育、発達をふまえた保育内容や方法および環境構成について説明できる。				
3. 乳児保育における指導計画を立案することができる。				

【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】				関連性
【知識・理解・技能】				
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。				○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。				○
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。				
【思考・判断・表現】				
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。				
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。				○
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。				
【関心・意欲・態度】				
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。				
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。				
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。				○

【成績評価の方法】				
成績指標	受講態度	課題レポート	提出物	合計
評価割合（％）	30%	40%	30%	100

【成績評価の基準】						
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0

【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】	
提出された課題等については、返却を行い、授業内で要点を確認する。	

【教科書】	
『資料でわかる乳児の保育新時代』乳児保育研究会編 ひとなる書房	

【参考書・参考資料等】	
『乳児の発達と保育 遊びと環境』エイデル研究所	
今井和子監修『育ちの理解と指導計画【改訂版】』小学館	
無藤隆・大豆生田啓友編著『0.1.2歳児の子どもの姿ベースの指導計画』フレーベル館	

【関連科目】	
「子どもの心理学」「子どもの保健」	

【受講心得】 専門職を目指すという心がまえをもち、積極的に授業に参加すること。 事前事後学習に取り組み、課題等は必ず提出し、内容理解に努めること。		
【備考】 保育士資格必修		
【学習項目】	担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1 乳児保育の基本（1） 子どもと保育士の関係		授業概要や到達目標の説明、乳児保育Ⅰの基本的事項の確認も行う。乳児保育の基本となる、子どもと保育士等の関係性の重要性についてふれる。 事前学習（0.5時間） シラバスを読み、わからない言葉は意味を調べておく。 事後学習（1時間） 授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。
2 乳児保育（2） 子どもの主体性の尊重		子どもの自己の発達過程を基に、子どもの主体性を育む保育について考えていく。 事前学習（0.5時間） 事前に授業内容に関する箇所を熟読しておくこと。 事後学習（1時間） 授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。
3 0歳児クラスの保育の実際①		子どもの発育・発達をふまえた保育の内容について学ぶ。 事前学習（0.5時間） 0歳児の発達を教科書で確認しておくこと。 事後学習（1時間） 授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。
4 0歳児クラスの保育の実際②		0歳児クラスの保育の環境の配慮、留意点等を学ぶ。 事前学習（0.5時間） 0歳児の保育の環境を教科書で確認しておくこと。 事後学習（1時間） 授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。
5 0歳児クラスの保育の実際③		0歳児クラスの保育士の援助について、具体的に考えていく。 事前学習（0.5時間） 実習での体験等、記録を振り返っておくこと。 事後学習（1時間） 授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。
6 1歳児クラスの保育の実際①		子どもの発育・発達をふまえた保育の内容について学ぶ。 事前学習（0.5時間） 1歳児の発達を教科書で確認しておくこと。 事後学習（1時間） 授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。
7 1歳児クラスの保育の実際②		1歳児クラスの保育の環境の配慮、留意点等を学ぶ。 事前学習（0.5時間） 0歳児の保育の環境を教科書で確認しておくこと。 事後学習（1時間） 授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。
8 1歳児クラスの保育の実際③		1歳児クラスの保育士の援助について、具体的に考えていく。 事前学習（0.5時間） 実習での体験等、記録を振り返っておくこと。 事後学習（1時間） 授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。

9	2歳児クラスの保育の実際①		子どもの発育・発達をふまえた保育の流れについて、主に基本的生活を中心にみていく。 事前学習（0.5時間） 2歳児の発達を教科書で確認しておくこと。 事後学習（1時間） 授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。
10	2歳児クラスの保育の実際②		2歳児クラスの保育の環境の配慮、留意点等を学ぶ。 事前学習（0.5時間） 2歳児の保育の環境を教科書で確認しておくこと。 事後学習（1時間） 授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。
11	2歳児クラスの保育の実際③		2歳児クラスの保育士の援助について、具体的に考えていく。 事前学習（0.5時間） 実習での体験等、記録を振り返っておくこと。 事後学習（1時間） 授業内容を振り返り、大切な事柄を整理しておくこと。
12	乳児保育における配慮の実際①		乳児保育における子どもの成長を保障する配慮の実際について、これまでの学びを基に、事例をとおして考えていく。 事前学習（0.5時間） 指定された箇所について教科書を熟読しておくこと。 事後学習（1時間） 授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。
13	乳児保育における配慮の実際②		乳児保育における子どもの成長を保障する配慮の実際について、これまでの学びを基に、事例をとおして考えていく。 事前学習（0.5時間） 指定された箇所について教科書を熟読しておくこと。 事後学習（1時間） 授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。
14	乳児保育における指導計画①		乳児保育の指導計画の立案をする。 事前学習（0.5時間） 乳児保育Ⅰで学んだ基本的事項を復習し、教科書を読んでおくこと。 事後学習（1時間） 授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。
15	乳児保育における指導計画②		立案した指導案の展開の工夫、評価のポイント等について学ぶ。 事前学習（1時間） 指定された箇所について教科書を熟読しておくこと。 事後学習（1時間） 授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。

科目名		担当代表教員		学年	期別	形態	必選	単位数
特別支援教育Ⅰ		是松 いづみ		2	前期	演習	選択	1
		担当形態	単独	ナンバリング		CE2204		
		担当教員	是松 いづみ					

【キーワード】	【概要】
1 障害児保育	近年、保育所・幼稚園では、障害認定までには至らないが、発達に遅れや偏りがある子どもが増加しているといわれている。そのような状況で障害のある子どもの保育・教育に関する知識はさらに重要になってきている。また、障害や出生後の養育環境によって、生活のしづらさや困りごとを抱える子どもへの対応や、その課題への解決方法を具体的に計画・提供できることが必要とってくる。本授業では、それらの子どもに対応していくために必要な知識や支援方法を理解していく。
2 知的障害	
3 発達障害	
4 言語障害	
5 合理的配慮	

【到達目標】
1. 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性及び心身の発達を理解する
2. 特別の支援を必要とする幼児、児童および生徒の教育課程及び支援の方法を理解する
3. 障害のある子どもの保護者や家族支援の方法を学び、対応の方法を理解する

【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】	関連性
【知識・理解・技能】	
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。	
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。	○
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。	○
【思考・判断・表現】	
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。	○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。	
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。	
【関心・意欲・態度】	
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。	
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。	
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。	○

【成績評価の方法】			
成績指標	定期試験	レポート（提出および提出状況）	合計
評価割合（％）	70	30	100

【成績評価の基準】						
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0

【評価内容】（ルーブリック）						
評価項目	4	3	2	1		
知識理解	特別支援教育の教育理念に基づき、その内容理解だけでなくテキスト以外からも幅広く知識を得ようとする	特別支援教育の教育理念に基づき、テキストの内容を一定程度理解できている。	支援教育の教育理念に基づき、テキストの理解が十分でない。	テキストの読解ができず、テキストの内容を理解できていない。		
資料の扱い	資料の内容を的確に把握した記述をしており、それを根拠として過不足なく十分に成立させている。	資料の内容を的確に把握した記述をしており、それを根拠として成立させている。	資料の内容を把握した記述をしており、それを根拠として一部成立させている。	資料の内容を把握していない形で扱っている。		
意見の提示	自分の意見を根拠とともに過不足のない形で十分、かつ明確に提示している。	自分の意見を根拠とともに明確に提示している。	自分の意見と根拠との関連が認められるが、一部明確でない形で成立させている。	資料の内容を把握していない形で扱っている。		
課題解決能力	自ら進んで様々な資料を探し、課題解決に向けて探求することができ、他人にもアドバイスできる。	テキスト等を参考にして独自で課題を解くことができる。	他人のアドバイスがあれば課題を解くことができる。	他人のアドバイスがあっても自発的に課題を解くことができない。		

【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】 レポートには添削したり、コメントを添えたりして返却する。		
【教科書】 『障害のある子どもの保育・教育』 小林利夫 他 編著 建帛社		
【参考書・参考資料等】 『特別支援学校学習指導要領・解説書』文部科学省 『よくわかる障害児保育』尾崎康子編著 ミネルヴァ書房 『障害児保育』本郷一夫編著 建帛社 『障害児保育』青木豊編著 一藝社 『障害児保育』西村重稀編 中央法規 『障害児保育』鯨岡峻編 ミネルヴァ書房 『障害児の保育・教育』 武藤久枝編 建帛社		
【関連科目】 「特別支援教育Ⅱ」「子どもの心理学」「子ども家庭福祉」「相談支援」「社会福祉」		
【受講心得】 ・子どもを「共感的に理解する」とはということなのかを、事例に則して考えることができるようにする。 ・他の学生や講師の話聞き、自分の考えや世界を広げたり深めたりできるようにする。 ・学んだ事をどのように生かすかという視点をもつことができるようにする。		
【備考】		
【学習項目】	担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1 オリエンテーション 本科目の位置づけ 学習の概要		<学習内容>15回の講義の概要とともに特別支援教育の基本的理念を中心に知る。 <事前学習>事前にテキストに目を通し、15回分の講義要項（シラバス）を知っておく。（30分） <事後学習> 特別支援教育の基本 について授業プリントに書き込んで理解を深める。（1時間）
2 「障害」の概念と障害児保育の歴史的変遷 ・「障害」とは何か ・障害の概念 ・障害体験		<学習内容>「障害とは何か」との問いに障害体験を通して自分のもつ「障害観」を見つめ、障害に対してどのような理解をし、支援をすることが必要であるかを学ぶ。障害の有る無しに関わらず、子どもの発達段階に合った支援の大切さを演習を通して理解する。 <事前学習>テキストP2～10までのエピソードを読む。（30分） <事後学習>授業プリントにまとめて、理解を深める。（1時間）
3 「障害」の概念と障害児保育の歴史的変遷 ・障害児保育の理念 ・障害児保育の歴史的変遷		<学習内容>障害の捉え方の変化について知り、現代の障害の概念について正しく捉える。特別支援教育の歴史的変遷を知り、尽力した人々の思いを受け止める。 <事前学習>授業プリントの資料の歴史的変遷に目を通しておく。（30分） <事後学習>テキストP10までを復習し授業プリントにまとめて理解を深める。（1時間）
4 知的発達症のある子どもの理解と援助		<学習内容>①知的発達症の定義と原因について学ぶ。②知的発達症のある子どもへの援助の方法を学ぶ。③演習を通して、意見交換する中で知的発達症の子どもへの援助のポイントを学ぶ。 <事前学習>テキストP27～37の知的発達症の子どもへのエピソードを熟読し子ども理解に努める。（30分） <事後学習>学習で用いた授業プリントに学んだことをまとめて理解を深める。（1時間）
5 自閉スペクトラム症のある子どもの理解と援助		<学習内容>①自閉スペクトラム症の定義と原因について学ぶ。②自閉スペクトラム症のある子どもへの援助の方法を学ぶ。③演習を通して、意見交換する中で自閉スペクトラム症の子どもへの援助のポイントを学ぶ。 <事前学習>テキストP56～64の自閉スペクトラム症の子どもへのエピソードを熟読し子ども理解に努める。（30分） <事後学習>学習で用いた授業プリントに学んだことをまとめて理解を深める。（1時間）
6 注意欠如・多動症のある子どもの理解と援助		<学習内容>①注意欠如・多動症の定義と原因について学ぶ。②注意欠如・多動症のある子どもへの援助の方法を学ぶ。③演習を通して、意見交換する中で注意欠如・多動症の子どもへの援助のポイントを学ぶ。 <事前学習>テキストP64～69の注意欠如・多動症の子どもへのエピソードを熟読し子ども理解に努める。（1時間） <事後学習>学習で用いた授業プリントに学んだことをまとめて理解を深める。（1時間）

7	障害のある方の視点から障害を考える		<学習内容>①自閉スペクトラム症の定義、原因、援助の方法について確認する。②自閉スペクトラム症である東田直樹さんのDVDを視聴する。③自閉スペクトラム症本人の言葉から自閉スペクトラム症について理解を深める。④意見交換する中で自分の「障害観」の変容に気付く。 <事前学習>テキストP56～64を復習しておく。(30分) <事後学習>DVD視聴の感想を授業プリントにまとめる。(1時間)
8	学習障害のある子どもの理解と援助		<学習内容>①学習障害の定義と原因について学ぶ。②学習障害のある子どもへの援助の方法を学ぶ。③演習を通して、意見交換する中で学習障害の子どもの援助のポイントを学ぶ。 <事前学習>テキストP69～72の学習障害の子どものエピソードを熟読し子ども理解に努める。(30分) <事後学習>学習で用いた授業プリントに学んだことをまとめて理解を深める。(1時間)
9	視覚障害のある子どもの理解と援助		<学習内容>①視覚障害の定義と原因について学ぶ。②視覚障害のある子どもへの援助の方法を学ぶ。③演習を通して、意見交換する中で視覚障害の子どもの援助のポイントを学ぶ。 <事前学習>テキストP38～43の視覚障害の子どものエピソードを熟読し子ども理解に努める。(30分) <事後学習>学習で用いた授業プリントに学んだことをまとめて理解を深める。(1時間)
10	聴覚障害のある子どもの理解と援助		<学習内容>①聴覚障害の定義と原因について学ぶ。②聴覚障害のある子どもへの援助の方法を学ぶ。③演習を通して、意見交換する中で聴覚障害の子どもの援助のポイントを学ぶ。 <事前学習>テキストP44～48の聴覚障害の子どものエピソードを熟読し子ども理解に努める。(1時間) <事後学習>学習で用いた授業プリントに学んだことをまとめて理解を深める。(1時間)
11	肢体不自由のある子どもの理解と援助		<学習内容>①肢体不自由の定義と原因について学ぶ。②肢体不自由のある子どもへの援助の方法を学ぶ。③演習を通して、意見交換する中で肢体不自由の子どもの援助のポイントを学ぶ。 <事前学習>テキストP21～26の肢体不自由の子どものエピソードを熟読し子ども理解に努める。(30分) <事後学習>学習で用いた授業プリントに学んだことをまとめて理解を深める。(1時間)
12	言語障害のある子どもの理解と援助		<学習内容>①言語障害の定義と原因について学ぶ。②言語障害のある子どもへの援助の方法を学ぶ。③演習を通して、意見交換する中で言語障害の子どもの援助のポイントを学ぶ。 <事前学習>テキストP49～54の言語障害の子どものエピソードを熟読し子ども理解に努める。(30分) <事後学習>学習で用いた授業プリントに学んだことをまとめて理解を深める。(1時間)
13	家庭支援と相談体制		<学習内容>①障害のある子どもの保護者や家族への理解を学ぶ。②障害受容について学ぶ。③障害のある子どもを支えるための相談のあり方について学ぶ。④多発性奇形のある子どもの家族の成長をDVD視聴する。 <事前学習>障害児の家族の悩みや支援体制の課題についての新聞記事を読んでおく。(30分) <事後学習>自分のする地域の障害者支援のための関係機関を整理する(1時間)
14	発達のアセスメントと支援（個別教育・指導計画）		<学習内容>一人一人の子どもの実態を把握するためのアセスメントのあり方。②アセスメントの中核を担う発達検査や心理検査の概要 ③知的障害や発達障害を理解するためのアセスメントの活用 ④一人一人の子どもの発達の現実に基づいた個別の保育計画の立案 アセスメントに対する保育の評価のあり方 <事前学習>発達検査や心理検査の情報収集(30分) <事後学習>講義で使ったチェックリストを身近な気になる子どものモデルを使って使ってみる。(1時間)

1 5	障害のある子どもの誕生から自立まで 現状と課題		<学習内容>①障害のある子どもの誕生の様子を知り，家族の思いを考える。②子どもが成長する中での友達や先生との関わりを知り，「共に生きる」ことを学ぶ。③自立に向けての成長への関わりを知る。 <事前学習>事前に授業プリントを熟読しておく。（30分） <事後学習>この講義で変容した「障害観」を元にこれから自分の生き方にどのように繋げていくかまとめる。（1時間）
1 6	定期試験		

科目名		担当代表教員		学年	期別	形態	必選	単位数
相談支援		今村 裕		2	後期	演習	選択	1
		担当形態	単独		ナンバリング		CE2308	
		担当教員	今村裕					

【キーワード】	心理支援・家族支援・カウンセリング		
1 保育相談支援	この授業では、現代社会における子育てをしている家庭が置かれている現状と課題について把握し、子どもや保護者、地域で子育てをしている家庭に多い相談内容を知り、実際の事例やグループディスカッションを通して、保育相談についての考えを深める。また、相談支援を行う専門職として必要な専門知識及び専門技術を学び、信頼される専門職となるための基本的態度、倫理観を身につけることを目的とする。		
2 信頼関係			
3 支援計画			
4 連携・協働			
5 社会資源			

【到達目標】
1. 現代社会における子育てをしている家庭が置かれている現状と課題について把握することができる。
2. 相談支援を行う専門職として必要な専門知識及び専門技術、基本的態度、倫理観を身につける。
3. 実際の保育相談支援の場面を想定し、保護者への相談支援を実行することができる。

【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】	関連性
【知識・理解・技能】	
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。	
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。	
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。	
【思考・判断・表現】	
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。	○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。	○
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。	
【関心・意欲・態度】	
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。	○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。	
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。	○

【成績評価の方法】				
成績指標	レポート	受講態度	提出物	合計
評価割合（％）	50	20	30	100

【成績評価の基準】						
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0

【評価内容】（ルーブリック）						
評価項目	4	3	2	1		
取り組む姿勢	与えられた課題に対して付加価値をつける努力をす	与えられた課題に対し自分なりの価値を見いだす。	与えられた課題に応える。	授業に参加する。		
グループ貢献	リーダーシップを取り、グループ成員力量向上に貢献	自分の意見と人の意見と協調させることができる。	人の意見を聞くことができる。	グループ活動に参加する。		
論理的思考・創造力	自分自身の考えを客観的根拠をもち再考する。	人の意見を取り入れ自分の意見を再考する。	自分の意見と人の意見の違いが認識できる。	活動に参加し自分の意見を持つ。		
表現力	自分の意見を生かしながら、人の意見を生かす。	自分の意見を人に伝える実践努力をする。	自分の意見を伝える準備をする。	表現する自分の意見を持つ。		

【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】 課題は授業中に提示し、次回授業時に返却する。試験終了後には、試験の解説を行う。		
【教科書】 『実践・保育相談支援』青木紀久代編著 みらい		
【参考書・参考資料等】 『保育所保育指針解説書』厚生労働省 フレーベル館 『学ぶ・わかる・みえる 演習・保育と相談援助（第2版）』前田敏雄監修／佐藤伸隆・中西遍彦編集 みらい 『学ぶ・わかる・みえる 演習・保育と子育て支援』小原敏郎・橋本好市・三浦主博編集 みらい		
【関連科目】 「社会福祉」「子ども家庭福祉」「社会的養護Ⅰ」「社会的養護Ⅱ」「子どもの心理学」 「子ども家庭支援の心理学」		
【受講心得】 保育現場での保護者支援の内容と技術について、主体的に授業に参加し理解できるように学び、事例を通して積極的に実践することを心がける。		
【備考】		
【学習項目】		担当
		学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1	オリエンテーション	<学習内容>授業の進め方及び授業の概要を説明する。 <事前学習>事前にシラバスを読んでおく。 (30分) <事後学習>保育実習を通して、気になった事例についてまとめる。(30分)
2	保育相談支援とは	<学習内容>保育相談支援の概要について説明する。最後に感想を書いてもらう。 <事前学習>事前に教科書のp14～31を読み、専門用語の意味を理解しておく。 (1時間) <事後学習>授業で学習した内容をまとめ、理解を深める。疑問があれば、次回授業で発表する。(1時間)
3	保育相談支援の方法① 保育相談の方法理解	<学習内容>保育相談支援を実行する際の方法について説明する。最後に感想を書いてもらう。 <事前学習>事前に教科書のp32～41を読み、専門用語の意味を理解しておく。 (1時間) <事後学習>授業で学習した内容をまとめ、理解を深める。疑問があれば、次回授業で発表する。(1時間)
4	保育相談支援の方法② カンファレンスの実行	<学習内容>前回授業で学んだ保育相談の方法に沿って、カンファレンスを想定し、実践してみる。最後に感想を書いてもらう。 <事前学習>事前に教科書のp41～45を読み、専門用語の意味を理解しておく。また前回授業の該当ページも読んでおく。 (1時間) <事後学習>授業で学習した内容をまとめ、理解を深める。疑問があれば、次回授業で発表する。(1時間)
5	保護者との関係づくり① 保護者との信頼関係の構築	<学習内容>保護者との関係づくりの考え方について説明する。最後に感想を書いてもらう。 <事前学習>事前に教科書のp46～53を読み、専門用語の意味を理解しておく。また前回授業の該当ページも読んでおく。 (1時間) <事後学習>授業で学習した内容をまとめ、理解を深める。疑問があれば、次回授業で発表する。(1時間)

6	保護者との関係づくり② カウンセリングマインドの習得と実践		<学習内容>保護者との関係づくりにあたって必要となるカウンセリングマインドについて説明し、実際に実行する。最後に感想を書いてもらう。 <事前学習>事前に教科書のp45を読み、専門用語の意味を理解しておく。また1年次に学修した「話の聴き方の基本」の内容を確認しておく。(1時間) <事後学習>授業で学習した内容をまとめ、理解を深める。疑問があれば、次回授業で発表する。(1時間)
7	保育の環境構成を生かした支援		<学習内容>保育相談支援について、環境構成の観点から説明する。最後に感想を書いてもらう。 <事前学習>事前に教科書の第4章(p58～69)を読み、専門用語の意味を理解しておく。 <事後学習>授業で学習した内容をまとめ、理解を深める。疑問があれば、次回授業で発表する。(1時間)
8	地域の資源の活用と関係諸機関との連携		<学習内容>保育相談支援における地域の相談資源や他機関との連携について説明する。最後に感想を書いてもらう。 <事前学習>事前に教科書の第5章(p70～81)を読み、専門用語の意味を理解しておく。 <事後学習>授業で学習した内容をまとめ、理解を深める。疑問があれば、次回授業で発表する。(1時間)
9	相談援助者になるために① 基本的態度とコミュニケーションスキル		<学習内容>相談援助者として求められる基本的態度やコミュニケーションスキルについて説明し、実践する。最後に感想を書いてもらう。 <事前学習>事前に配付する資料を読み、専門用語の意味を理解しておく。 <事後学習>授業で学習した内容をまとめ、理解を深める。疑問があれば、次回授業で発表する。(1時間)
10	相談援助者になるために② 記録		<学習内容>保育相談支援における記録の目的と方法について説明する。最後に感想を書いてもらう。 <事前学習>事前に配付する資料を読み、専門用語の意味を理解しておく。 <事後学習>授業で学習した内容をまとめ、理解を深める。疑問があれば、次回授業で発表する。(1時間)
11	実際の保育場面における相談支援の概観		<学習内容>様々な保育相談の事例について触れ、保育相談支援の実際を把握する。グループワークも行う。また、最後に感想を書いてもらう。 <事前学習>事前に配付する資料を読み、専門用語の意味を理解しておく。 <事後学習>授業で学習した内容をまとめ、理解を深める。疑問があれば、次回授業で発表する。(1時間)
12	相談支援の事例検討①_日常生活場面での相談について 事例検討のための情報収集および支援の策定		<学習内容>実際の保育場で起こり得る日常生活の中での相談事例について、グループで支援者の在り方や具体的な支援の方法について考える。最後に感想を書いてもらう。 <事前学習>事前に教科書の第6～9章(p84～141)を読み、実際の支援場面を把握しておく。 <事後学習>授業で学習した内容をまとめ、理解を深める。疑問があれば、次回授業で発表する。(1時間)
13	相談支援の事例検討②_日常生活場面での相談について 実際の相談場面を想定したロールプレイの実施		<学習内容>実際の保育場で起こり得る日常生活の中での相談事例について、グループごとにロールプレイを行う。最後に感想を書いてもらう。 <事前学習>グループで検討した内容を見直す。また、自分で保育相談支援に関する事例の資料を見つけ、支援の具体的な方法について確認する。 <事後学習>授業で学習した内容をまとめ、理解を深める。疑問があれば、次回授業で発表する。(1時間)

1 4	相談支援の事例検討③_配慮が必要な家庭における保育相談支援 事例検討のための情報収集および支援の策定		<学習内容>配慮が必要な家庭における相談事例について、グループで支援者の在り方や具体的な支援の方法について考える。最後に感想を書いてもらう。 <事前学習>事前に教科書の第10～12章（p142～187）を読み、実際の支援場面を把握しておく。 <事後学習>授業で学習した内容をまとめ、理解を深める。疑問があれば、次回授業で発表する。（1時間）
1 5	相談支援の事例検討④_配慮が必要な家庭における保育相談支援 実際の相談場面を想定したロールプレイの実施		<学習内容>配慮が必要な家庭における相談事例について、グループごとにロールプレイを行う。最後に感想を書いてもらう。 <事前学習>グループで検討した内容を見直す。また、自分で保育相談支援に関する事例の資料を見つけ、支援の具体的な方法について確認する。 <事後学習>授業で学習した内容をまとめ、理解を深める。疑問があれば、次回授業で発表する。（1時間）
1 6	試験		

科目名		担当代表教員		学年	期別	形態	必選	単位数
在宅保育		砥上 あゆみ		2	通年	講義	選択	2
		担当形態	単独	ナンバリング			CE2401	
		担当教員	砥上 あゆみ					

【キーワード】	【概要】
1 家庭訪問保育	保育者が子どもの居宅等を訪問して行う保育として、「家庭訪問保育」や「在宅（居宅）保育」があげられます。このような地域子ども・子育て支援事業について理解を深め、家庭訪問保育に関する専門知識・技術を身につけることを目的とします。在宅における保育者としての保育マインドや保育内容、乳幼児のケアや遊び・保護者への対応について理解を深め、保育技術を高めていきます。
2 子育て支援	
3 個別的保育	
4 保育マインド	
5 乳幼児の発達	

【到達目標】
1. 「家庭訪問保育」や「在宅（居宅）保育」の概要、役割および必要とされている背景について理解できる。
2. さまざまな子ども・家庭を支援するための保育マインドや支援の基本が理解できる。
3. 在宅での保育において、保育内容や必要な技術を習得することができる。

【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】	関連性
【知識・理解・技能】	
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。	
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。	
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。	○
【思考・判断・表現】	
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。	○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。	○
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。	
【関心・意欲・態度】	
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。	○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。	
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。	○

【成績評価の方法】				
成績指標	課題・レポート	受講態度	小テスト	合計
評価割合（％）	40	30	30	100

【成績評価の基準】						
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0

【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】						
授業内でフィードバックを行う。						

【教科書】						
『家庭訪問保育の理論と実際』 社団法人全国保育サービス協会 中央法規						

【参考書・参考資料等】						
講義中に紹介します。						

【関連科目】						
保育士資格取得に必要な科目						

【受講心得】						
到達目標を達成するために、各授業での内容理解や課題意識をもち、学習意欲をもって受講してほしい。						

【備考】			
保育士課程選択必修、授業内で小テストを実施する			
【学習項目】		担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1	オリエンテーション 家庭訪問保育の概要・保育マインド		<学習内容>授業の概要や到達目標等について、オリエンテーションを行う。また、家庭訪問保育（在宅保育）の概要や保育マインドについて考える。 <事前学習>シラバス（講義要項）に目をとおしておく。（30分） <事後学習>授業で学んだこと、気づきなどをふりかえる。（30分）
2	居宅訪問保育の概要		<学習内容>居宅訪問保育の概要、業務の流れを理解する。また、集団保育と個別的保育の共通点や相違点について考える。 <事前学習>教科書を読んでおく。（30分） <事後学習>授業で学んだこと、気づきなどをふりかえる。（30分）
3	居宅訪問型保育の実際 乳幼児の生活と遊び、環境整備		<学習内容>居宅訪問保育における個別的保育について、乳幼児の生活や遊び、環境整備などについて考える。 <事前学習>教科書を読んでおく。（30分） <事後学習>授業で学んだこと、気づきなどをふりかえる。（30分）
4	乳幼児の生活① 乳幼児の発達と心理		<学習内容>乳幼児の生活について、発達と心理を中心に理解を深める。 <事前学習>教科書を読んでおく。（30分） <事後学習>授業で学んだこと、気づきなどをふりかえる。（30分）
5	乳幼児の生活② 乳幼児の食事と栄養		<学習内容>乳幼児の生活について、食事と栄養中心に理解を深める。 <事前学習>教科書を読んでおく。（30分） <事後学習>授業で学んだこと、気づきなどをふりかえる。（30分）
6	乳幼児の生活③ 小児保健Ⅰ，Ⅱ		<学習内容>乳幼児の生活について、健康管理、感染予防に理解を深める。 <事前学習>教科書を読んでおく。（30分） <事後学習>授業で学んだこと、気づきなどをふりかえる。（30分）
7	居宅訪問型の保育内容		<学習内容>居宅訪問型における保育内容、計画や評価について学習する。 <事前学習>教科書を読んでおく。（30分） <事後学習>
8	在宅保育における安全確保と リスクマネジメント		<学習内容>事故対策については事例とDVDを参考に、実際に対応ができるよう考えていく。 <事前学習>教科書を読んでおく。 <事後学習>授業で学んだこと、気づきなどをふりかえる。（30分）
9	不適切な養育環境（子どもの虐待）		<学習内容>居宅訪問型保育（在宅保育）の特性をいかした支援と配慮や留意事項について学習する。不適切な養育環境、子どもの虐待について考えていく。 <事前学習>教科書を読んでおく。（30分） <事後学習>授業で学んだこと、気づきなどをふりかえる。（30分）

1 0	特別な配慮を必要とする子どもへの対応		<学習内容>居宅訪問型保育（在宅保育）の特性をいかした支援と配慮や留意事項について学ぶ。 <事前学習>教科書を読んでおく。（30分） <事後学習>授業で学んだこと、気づきなどをふりかえる。（30分）
1 1	保育技術の習得（お世話編）		<学習内容>保育技術の習得、お世話 <事前学習>今までに出会った子どもたちの姿を思い返しておく。（30分） <事後学習>授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。（30分）
1 2	保育技術の習得（遊び編）		<学習内容>保育技術の習得、お世話 <事前学習>今までに出会った子どもたちの姿を思い返しておく。（30分） <事後学習>授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。（30分）
1 3	職業倫理と配慮事項		<学習内容>在宅保育の特性から子どもや保護者からの相談について考える。実践的に相談を受ける練習をする。 <事前学習>普段相談を受ける際に気を付けていることなどをまとめておく。（30分） <事後学習>授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。（30分）
1 4	居宅訪問型保育における保護者への対応		<学習内容>在宅保育の特性から子どもや保護者からの相談について考える。実践的に相談を受ける練習をする。 <事前学習>普段相談を受ける際に気を付けていることなどをまとめておく。（30分） <事後学習>授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。（31分）
1 5	さまざまな家庭訪問保育まとめ		<学習内容>在宅保育の特性を活かしたあそびと保育技術について考える。また、授業のまとめを行う。 <事前学習>今までの授業のプリントなどを振り返っておく。（30分） <事後学習>授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。（30分）

科目名		担当代表教員		学年	期別	形態	必選	単位数
保育・教育基礎研究Ⅲ		砥上 あゆみ		2	前期	演習 実技	選択	1
		担当形態	複数	ナンバリング			CE2312	
		担当教員	谷川知士、豊辻晴香、高口知浩、川崎徳子					

【キーワード】	【概要】					
1 保育技術	保育技術の向上を目指し、指導計画および指導法について学習する。また、幼稚園や保育所等でサービスラーニングを行い、子どもを観察する視点や実践内容および方法について学びを深めていく。					
2 個性						
3 指導法						
4 発達						
5 サービスラーニング						
【到達目標】						
1. 個々の特性を活かした保育・教育の専門性に気付くことができる。						
2. 保育・教育指導に関する学習内容を、保育の場において実践し省察することができる。						
3. 保育における効果的な指導法を追究することができる。						
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】		関連性				
【知識・理解・技能】						
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。						
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。						
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。						
【思考・判断・表現】						
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。						
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。						
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。						
【関心・意欲・態度】						
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。						
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。						
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。						
【成績評価の方法】各表現活動における						
成績指標	取り組み姿勢等	保育技術	課題レポート	合計		
評価割合（％）	30	40	30	100		
【成績評価の基準】						
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0
【評価内容】（ルーブリック）						
評価項目	4	3	2	1		
主体性 協調性	主体的に活動内容を考え表現し、リーダーシップをとり他者の意見も尊重し協調性を大切にしている	主体的に活動内容を考え表現し、他者の意見も尊重し協調性を大切にしている	自ら発言することもあり、他者からの働きかけに応じる姿が見られる	活動への参加が消極的であり、他者からの働きかけで活動することができる		
指導計画	子どもの発達を理解し、子どもの実態に基づき、計画を深めることができる	子どもの発達を理解し、子どもの実態に基づき、計画を立てることができる	子どもの発達をある程度理解した計画を立てることができる	子どもの発達を少し理解した計画を立てることができる		
実践力	保育者として、子どもの遊びを発展させるなどの関わりの方の工夫ができる	保育者として、関わりの方の工夫ができる	保育者として、子どもと関わる姿が見られる	保育者として、子どもとの関わりに消極的であるが子どもと関わろうとしている		
課題意識	これまでの学びを基礎とし課題を見出し、考えを深めることができる	これまでの学びを基礎とし課題意識をもち、考えることができる	これまでの学びを基礎とし、課題を見出すことができる	与えられた課題から考えようとする姿が見られる		
レポート	レポートの課題について、論点を整理し自分の考えを論理的に述べ、自己省察ができている	レポートの課題について、論点を整理し自分の考えを述べることができる	レポート課題について自分の考えを述べるができる	レポートの課題について、自分の考えを少し述べるができる		

【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】 レポートや実践については授業内でフィードバックをする。		
【教科書】 特に指定しない。		
【参考書・参考資料等】 講義の中で紹介する。		
【関連科目】 「保育・教育基礎研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ」「保育内容に関する科目全般」 「子どもの理解に関する科目全般」「保育・教職実践演習」		
【受講心得】 プロの保育者・教育者を目指す志をもって臨む。 これまでの学びを基に、考えを深めていくことを念頭においておくこと。		
【備考】 保育士課程 選択必修		
【学習項目】	担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1 オリエンテーション 保育について考える① 子ども理解を深める	豊 辻 砥 上	<学習内容> オリエンテーション（授業概要の説明） 子ども理解を深めていくためにグループディスカッションを行う。 <事前学習>事前に15回分の講義要項（シラバス）に目を通しておく。（0.5時間） <事後学習>学習内容を整理しておくこと。（0.5時間）
2 オリエンテーション 保育について考える② 子ども理解を深める	豊 辻 砥 上	<学習内容> 子ども理解を深めていくために学びの共有を行う。 <事前学習>授業や実習で得た学びを振り返る。（0.5時間） <事後学習>学習内容を整理しておくこと。（0.5時間）
3 保育について考える③ 子どもと保育者の関係性について	川 崎 高 口	<学習内容>子どもと保育者の関係性について考えていく。 <事前学習>授業や実習で得た学びを振り返る。（0.5時間） <事後学習>学習内容を整理しておくこと。（0.5時間）
4 保育について考える④ 子ども同士の関係性について	川 崎 高 口	<学習内容>子ども同士の関係性について考えていく。 <事前学習>授業や実習で得た学びを振り返る。（0.5時間） <事後学習>学習内容を整理しておくこと。（0.5時間）
5 子どもの遊びを考え、実践する①	谷 川 高 口	<学習内容>子どもの遊びを考え、実践する。 <事前学習>計画や活動内容を考えておくこと。（0.5時間） <事後学習>活動内容および学習内容を整理しておくこと。（0.5時間）
6 子どもの遊びを考え、実践する①	谷 川 高 口	<学習内容>子どもの遊びを考え、実践する。 <事前学習>計画や活動内容を考えておくこと。（0.5時間） <事後学習>活動内容および学習内容を整理しておくこと。（0.5時間）

7	子どもの遊びを考え、実践する②	豊 辻 砥 上	<学習内容>子どもの遊びを考え、実践する。 <事前学習>計画や活動内容を考えておくこと。(0.5時間) <事後学習>活動内容および学習内容を整理しておくこと。(0.5時間)
8	子どもの遊びを考え、実践する②	豊 辻 砥 上	<学習内容>子どもの遊びを考え、実践する。 <事前学習>計画や活動内容を考えておくこと。(0.5時間) <事後学習>活動内容および学習内容を整理しておくこと。(0.5時間)
9	子どもの遊びを考え、実践する③	谷 川 川 崎	<学習内容>子どもの遊びを考え、実践する。 <事前学習>計画や活動内容を考えておくこと。(0.5時間) <事後学習>活動内容および学習内容を整理しておくこと。(0.5時間)
10	子どもの遊びを考え、実践する③	谷 川 川 崎	<学習内容>子どもの遊びを考え、実践する。 <事前学習>計画や活動内容を考えておくこと。(0.5時間) <事後学習>活動内容および学習内容を整理しておくこと。(0.5時間)
11	サービスラーニング①	全 員	<学習内容>保育活動を実践する。 <事前学習>シミュレーションの準備をする。(0.5時間) <事後学習>活動内容および気づきを整理しておくこと。(0.5時間)
12	サービスラーニング①	全 員	<学習内容>保育活動を実践する。 <事前学習>シミュレーションの準備をする。(0.5時間) <事後学習>活動内容および気づきを整理しておくこと。(0.5時間)
13	サービスラーニング②	全 員	<学習内容>保育活動を実践する。 <事前学習>シミュレーションの準備をする。(0.5時間) <事後学習>活動内容および気づきを整理しておくこと。(0.5時間)
14	サービスラーニング②	全 員	<学習内容>保育活動を実践する。 <事前学習>シミュレーションの準備をする。(0.5時間) <事後学習>活動内容および気づきを整理しておくこと。(0.5時間)
15	振り返りとまとめ	全 員	<学習内容>保育の実践を通しての学びを振り返る。 <事前学習>実践で得た学びや反省等を各自考えておく。(0.5時間) <事後学習>当授業で得た学びを整理しておくこと。(0.5時間)

科目名		担当代表教員		学年	期別	形態	必選	単位数
音楽表現Ⅳ		豊辻 晴香		2	通年	演習	選択	1
		担当形態	複数教員	ナンバリング			CE2314	
		担当教員	豊辻晴香、下村恭子、福田陽子、松岡礼子、水崎玄、淀川典子					

【キーワード】	【概要】
1 ピアノ演奏	音楽的に豊かな表現力と指導力が備わった保育・教育者となれるよう、個々のピアノ演奏技術を向上することを目的とする。前半には、音楽表現Ⅰ～Ⅲの復習や即興的伴奏法を学び、後半では各自が選択した課題内容（高度な子どもの歌の伴奏や、アニメーションやクラシックといった幅広いジャンルの楽曲の独奏や連弾等）にも挑戦する。また、最後に発表会を企画・運営・実演することで、2年間で培った演奏技術を披露するだけでなく、音楽の魅力的な提供法についても研究する。
2 音楽的表現	
3 即興的伴奏法	
4 弾き歌い	
5 発表	

【到達目標】	
1. 既習・体得した演奏技術を維持・向上させ、多様な楽曲のレパートリーを増やすことができる。	
2. 幅広く豊かな音楽的表現ができるよう、演奏技術を身に付け実践することができる。	
3. メロディに即興でコード和音を付けながら、伴奏することができる。	

【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】		関連性
【知識・理解・技能】		
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。		○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。		
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。		○
【思考・判断・表現】		
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。		
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。		
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。		○
【関心・意欲・態度】		
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。		
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。		
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。		

【成績評価の方法】				
成績指標	授業態度	発表会	課題	合計
評価割合（％）	20	50	30	100

【成績評価の基準】						
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0

【評価内容】（ルーブリック）						
評価項目	4	3	2	1		
表現力	曲想や歌の世界観、曲構成を把握し、高度な演奏技術を用いて、音楽的に豊かに表現できる。	多少の音間違いや弾き直しがあるものの、曲想や歌の世界観を音楽的に表現できる。	曲想や歌の世界観を表現することを意識しつつ、基礎的な技術を用いながら演奏できる。	曲想や歌の世界観を事前にイメージし、自分なりに演奏できる。		
演奏技術力	難易度の高い曲を、概ね編曲等することなく演奏できる。	ある程度の難易度のある曲を、部分的に簡易に変更して演奏できる。	中程度の曲を、弾きやすく編曲したりコードネーム和音を用いて演奏できる。	難易度が簡単な曲を、コードネーム和音を用いて演奏できる。		
理解力	即座に適切なコードネーム伴奏を考えて演奏し、その仕組みを自力で説明できる。	適切なコードネーム伴奏を考えて演奏し、その仕組みを指導を受けながら説明できる。	自分なりに考えてコードネーム伴奏を当てはめることができる。	指導を受けながら、コードネーム伴奏を当てはめることができる。		
主体性	課題意識を持ち、計画的に日々の事前学習に取り組む。	課題意識を持ちつつ、事前学習に取り組む。	自分なりのペースで事前学習に取り組んでいる。	授業で課題に取り組んでいる。		

積極性	規定より多くの曲数をこな し、いつでも演奏すること ができる。	規定より、多くの曲数をこ なしている。	規定よりわずかに多くの曲 数をこなしている。	規定通りの曲数をこなして いる。		
【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】 発表会の評価や内容について、終了時にその都度口頭で伝える。						
【教科書】 『あなたも弾ける やさしい童謡唱歌集』 木村鈴代（編著） 同文書院 『ユニバーサルデザインの音楽表現』 星山麻木（編著） 萌文書林 / その他、適時資料配布						
【参考書・参考資料等】 『こどものうた200』『続・こどものうた200』 小林美実（編者） チャイルド本社 『あなたも弾ける やさしい童謡唱歌集』 木村鈴代（編著） 同文書院						
【関連科目】 「音楽表現Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」「保育内容（音楽表現）」「子どもと表現」						
【受講心得】 ピアノ演奏は毎日の積み重ねが重要なため、予習復習を心がける。習熟度により、学習進行や順番が変わること もある。						
【備考】 保育士課程選択必修						
【学習項目】		担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）			
1	オリエンテーション および ピアノ演奏・弾き歌いの発展①	各教員	<学習内容>本授業の目的や進行等について理解する。また、既習曲の復習をする。 <事前学習>決められた課題曲を合格できるよう、予習をしっかりと行って授業に臨む。（3時間） <事後学習>不合格になった曲の復習をし、次回の授業での合格を目指す。合格した場合もいつでも弾けるように継続して練習する。（3時間）			
2	ピアノ演奏・弾き歌いの発展②	各教員	<学習内容>既習曲を復習しつつ、保育・教育現場を想定した歌い方やピアノ演奏に取り組む。 <事前学習>決められた課題曲を合格できるよう、予習をしっかりと行って授業に臨む。（3時間） <事後学習>不合格になった曲の復習をし、次回の授業での合格を目指す。合格した場合もいつでも弾けるように継続して練習する。（3時間）			
3	弾き歌いの伴奏法①	各教員	<学習内容>メロディに即興でコードネームの和音を付けながら伴奏する技術を学ぶ。 <事前学習>決められた課題曲を合格できるよう、予習をしっかりと行って授業に臨む。（3時間） <事後学習>不合格になった曲の復習をし、次回の授業での合格を目指す。合格した場合もいつでも弾けるように継続して練習する。（3時間）			
4	弾き歌いの伴奏法②	各教員	<学習内容>メロディに即興でコードネームの和音を付けながら伴奏する技術を学ぶ。 <事前学習>決められた課題曲を合格できるよう、予習をしっかりと行って授業に臨む。（3時間） <事後学習>不合格になった曲の復習をし、次回の授業での合格を目指す。合格した場合もいつでも弾けるように継続して練習する。（3時間）			
5	ピアノ演奏・弾き歌いの発展③	各教員	<学習内容>既習曲を復習しつつ、保育・教育現場を想定した歌い方やピアノ演奏に取り組む。 <事前学習>決められた課題曲を合格できるよう、予習をしっかりと行って授業に臨む。（3時間） <事後学習>不合格になった曲の復習をし、次回の授業での合格を目指す。合格した場合もいつでも弾けるように継続して練習する。（3時間）			
6	ピアノ演奏・弾き歌いの発展④ 中間発表会	各教員	<学習内容>任意の1曲をクラスで弾き歌いし、集団の場におけるピアノ演奏と歌唱の経験を積む。 <事前学習>発表会に向けて、練習に励む。（3時間） <事後学習>発表会での振り返りを基に、復習する。（3時間）			

7	弾き歌いの伴奏法③	各教員	<学習内容>メロディに即興でコードネームの和音を付けながら伴奏する技術を学ぶ。 <事前学習>決められた課題曲を合格できるよう、予習をしっかり行って授業に臨む。(3時間) <事後学習>不合格になった曲の復習をし、次の授業での合格を目指す。合格した場合もいつでも弾けるように継続して練習する。(3時間)
8	弾き歌いの伴奏法④	各教員	<学習内容>メロディに即興でコードネームの和音を付けながら伴奏する技術を学ぶ。 <事前学習>決められた課題曲を合格できるよう、予習をしっかり行って授業に臨む。(3時間) <事後学習>不合格になった曲の復習をし、次の授業での合格を目指す。合格した場合もいつでも弾けるように継続して練習する。(3時間)
9	ピアノ楽曲の取り組み①	各教員	<学習内容>多様なジャンルのピアノ楽曲を、音楽的に表現しながら演奏する。 <事前学習>決められた課題曲を合格できるよう、予習をしっかり行って授業に臨む。(3時間) <事後学習>不合格になった曲の復習をし、次の授業での合格を目指す。合格した場合もいつでも弾けるように継続して練習する。(3時間)
10	ピアノ楽曲の取り組み②	各教員	<学習内容>多様なジャンルのピアノ楽曲を、音楽的に表現しながら演奏する。 <事前学習>決められた課題曲を合格できるよう、予習をしっかり行って授業に臨む。(3時間) <事後学習>不合格になった曲の復習をし、次の授業での合格を目指す。合格した場合もいつでも弾けるように継続して練習する。(3時間)
11	ピアノ楽曲の取り組み③	各教員	<学習内容>多様なジャンルのピアノ楽曲を、音楽的に表現しながら演奏する。 <事前学習>決められた課題曲を合格できるよう、予習をしっかり行って授業に臨む。(3時間) <事後学習>不合格になった曲の復習をし、次の授業での合格を目指す。合格した場合もいつでも弾けるように継続して練習する。(3時間)
12	ピアノ楽曲の取り組み④	各教員	<学習内容>多様なジャンルのピアノ楽曲を、音楽的に表現しながら演奏する。 <事前学習>決められた課題曲を合格できるよう、予習をしっかり行って授業に臨む。(3時間) <事後学習>不合格になった曲の復習をし、次の授業での合格を目指す。合格した場合もいつでも弾けるように継続して練習する。(3時間)
13	ピアノ楽曲の取り組み⑤	各教員	<学習内容>多様なジャンルのピアノ楽曲を、音楽的に表現しながら演奏する。 <事前学習>決められた課題曲を合格できるよう、予習をしっかり行って授業に臨む。(3時間) <事後学習>不合格になった曲の復習をし、次の授業での合格を目指す。合格した場合もいつでも弾けるように継続して練習する。(3時間)
14	ピアノ楽曲の取り組み⑥	各教員	<学習内容>全体発表会に向けて、演奏内容を高めるとともに、聴衆も楽しめる発表の仕方を考え備える。 <事前学習>決められた課題曲を合格できるよう、予習をしっかり行って授業に臨む。(3時間) <事後学習>発表会に向けて、準備・練習に励む。(3時間)
15	ピアノ楽曲の取り組み⑦ —発表会の準備—	各教員	<学習内容>これまでの成果を発揮しながら、クラス全体の前で演奏披露する。 <事前学習>発表会に向けて、練習に励む。(3時間) <事後学習>今後に活かせるよう、全体発表会で学んだことを振り返る。(1時間)

1 6	全体発表会		
-----	-------	--	--

科目名	担当代表教員	学年	期別	形態	必選	単位数
保育実習Ⅱ	高口 知浩	2	前期	実習	選択	2
	担当形態	複数	ナンバリング		CE2316	
	担当教員	高口知浩、豊辻晴香、飯塚恭一郎				

【キーワード】	【概要】					
1 保育所実習	「保育実習Ⅰ」での学びを踏まえて、保育実践力の向上を目指す。子どもの観察とその記録及び子どもの援助やかかわり方、環境構成など、様々な実践を通して総合的に学ぶ。指導計画の立案、指導案の作成、実習記録に基づく省察等、記録を保育にいかす方法を習得する。さらに、専門職としての保育士の役割、職業倫理を学ぶ、自己の課題を明確にする。					
2 子ども理解						
3 保育記録						
4 保育計画						
5 職業倫理						
【到達目標】						
1. 子どもの観察やかかわりの視点を明確にし、保育の理解を深めることができる。						
2. 保育実習Ⅰの経験を踏まえ、子どもの保育及び子育て支援について、総合的に理解し、保育実践に結びつけることができる。						
3. 実習における自己の課題を明確にすることができる。						
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】		関連性				
【知識・理解・技能】						
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。						
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。						
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。		○				
【思考・判断・表現】						
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。		○				
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。						
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。		○				
【関心・意欲・態度】						
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。						
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。		○				
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。		○				
【成績評価の方法】						
成績指標	実習評価	実習に対する取り組み	合計			
評価割合 (%)	80%	20%	100			
【成績評価の基準】						
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0
【評価内容】（ルーブリック）						
評価項目	4	3	2	1		
実習園の評価	非常に優れている。	優れている。	適切である。	努力を要する。		
実習日誌	保育に対する考察が十分になされている。	指導を受けた個所を改善しようと努力している。	毎日、丁寧に読みやすく書いている。	毎日提出している。		
態度・行動	自分自身の課題を見付け積極的に実習する。	決められた課題に取り組み実習をする。	教員の指導を受けて自ら改善し実習をする。	教員から多くの指導・助言を受けて実習をする。		

【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】 提出された課題については、返却を行い、要点を確認する。		
【教科書】 『実習の手引き』 純真短期大学こども学科 『保育所保育指針解説書』厚生労働省 フレーベル館		
【参考書・参考資料等】 適宜、プリントを配布する。		
【関連科目】 「保育実習Ⅰ（保育所）」 「保育実習指導Ⅰ（保育所）」 「保育実習指導Ⅱ」		
【受講心得】 保育実習Ⅰの経験をいかして、学びを深めるために、自己の課題を明確にし改善に努めること。 また、専門職である保育士の資格取得に係る実習ですので、意欲的に、責任感をもって参加すること。		
【備考】 保育士資格選択必修		
【学習項目】		学習内容、事前・事後学習（学習時間）
実習は、実習園と調整の上、2年次に10日間実施する。 <実習内容> 1. 養護と教育が一体的に展開される保育の理解および技術の習得を目指す。 2. 子どもの最善の利益を考慮した保育の実際を理解および保育の展開の習得を目指す。 3. 保護者・家庭への支援と地域社会等の連携および保育者間でのチームワークの理解を目指す。 4. 全体的な計画に基づく保育指導計画の作成・実践・省察・評価の理解および実践力の向上を目指す。 <事前学習>（3時間） 実習目標をしっかりとたて、目標を達成するために保育の知識のふりかえり、保育技術の向上に取り組むこと。 <事後学習>（3時間） 日々の実習目標をふりかえり、自己省察し、常に保育の知識・技術の習得に励むこと。		

科目名		担当代表教員		学年	期別	形態	必選	単位数
保育実習Ⅲ		砥上 あゆみ		2	前期	実習	選択	2
		担当形態	複数	ナンバリング		CE2317		
		担当教員	砥上あゆみ、谷川知士					

【キーワード】	【概要】					
1 実習	保育実習Ⅰ（施設）をふまえて、保育実習Ⅲでは、より具体的な支援・技術を養っていきます。より学びが深まるよう、子ども理解や保護者および家庭支援など具体的な実践に結びつけて参加型実習を行います。					
2 施設						
3 障害						
4 社会的養護						
5 子ども家庭福祉						
【到達目標】						
1. 児童福祉施設等（保育所以外）の役割や機能についての理解を深めることができる。						
2. 子どもやその家庭への理解をもとに、支援のための知識、技術を理解することができる。						
3. 保育士としての自己課題を明確化することができる。						
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】		関連性				
【知識・理解・技能】						
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。						
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。			○			
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。						
【思考・判断・表現】						
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。			○			
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。			○			
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。						
【関心・意欲・態度】						
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。			○			
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。			○			
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。			○			
【成績評価の方法】						
成績指標	実習の評価		提出物	合計		
評価割合（％）	70		30	100		
【成績評価の基準】						
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0
【評価内容】（ルーブリック）						
評価項目	4	3	2	1		
実習園の評価	非常に優れている。	優れている。	優れている。	努力を要する。		
実習日誌	保育に対する考察が十分になされている。	指摘を受けた個所を改善しようと努力している。	毎日、丁寧に読みやすく書いている。	毎日提出している。		
態度行動	自分自身の課題を見付け積極的に実習をする。	決められた課題に取り組み実習をする。	教員の指導を受けて自ら改善し実習をする。	教員から多くの指導・助言を受けて実習をする。		

【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】 実習日誌等の評価とフィードバックは授業内で行う。		
【教科書】 65期生「実習の手引き」その他、適宜プリント、資料を配布します。		
【参考書・参考資料等】 授業内で紹介する		
【関連科目】 「保育実習Ⅰ」「保育実習指導」「子ども家庭福祉」「社会的養護Ⅰ」「社会的養護Ⅱ」 「特別支援教育Ⅰ」「特別支援教育Ⅱ」		
【受講心得】 ・短い実習期間を有意義に過ごすために、意欲をもって参加し、事前準備や実習の記録を具体的に行うこと		
【備考】 保育士課程選択必修		
【学習項目】	担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
実習は、2年次の7月以降、施設との調整のうえ10日間参加型実習を行う。 【実習課題】 1. 実習施設の役割と機能 2. 実習施設における支援の実際 ①受容、共感する態度および養護（保育）技術 ②入所者や通所者のニーズの把握と理解 ③個別支援計画作成と実践の様子 ④家庭支援と対応 ⑤多様な専門職との連携 ⑥地域との連携 3. 保育士の業務と職業倫理 4. 保育士としての自己課題の明確化 <事前学習>実習指導の内容を確認し、実習に向けて準備を行うこと（1時間） <事後学習>実習で学んだことを整理すること（1時間）		

科目名		担当代表教員		学年	期別	形態	必選	単位数
保育実習指導Ⅱ		高口 知浩		2	通年	演習	選択	1
		担当形態	複数	ナンバリング			CE2318	
		担当教員	高口知浩、豊辻晴香、飯塚恭一郎					

【キーワード】		【概要】	
1	養護	保育実習Ⅱの意義、目的を理解し、実習生としての必要な資質・知識・技術を演習をと おして学ぶ。自己の保育実践をふりかえり、保育士の専門性や職業倫理などについても理解 を深めていく。	
2	教育		
3	実習		
4	職業倫理		
5	保育技術		

【到達目標】	
1. 保育実習Ⅱの意義と目的を理解し、保育について総合的に理解することができる。	
2. 保育実習Ⅰや既習の教科目内容やその関連性を踏まえ、保育の実践力を習得することができる。	
3. 保育実践をふりかえり、保育者としての知識および技術の習得、資質について、自己課題を明確にできる。	

【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】		関連性
【知識・理解・技能】		
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。		
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。		
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。		○
【思考・判断・表現】		
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。		○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。		
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。		○
【関心・意欲・態度】		
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。		
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。		○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。		○

【成績評価の方法】					
成績指標	受講態度	グループワーク	課題・提出物	事前・事後準備	合計
評価割合（％）	30%	20%	20%	30%	100

【成績評価の基準】						
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0

【評価内容】（ルーブリック）						
評価項目	4	3	2	1		
態度・行 動	自分自身の課題を克服 するために必要なこと に取り組み、積極的に 事前準備等に取り組 む。	自分自身の課題を 見付け積極的に事 前準備等に取り組 む。	決められた課題を 見付け事前準備等 に取り組む。	教員の指導を受け て自ら改善しなが ら事前準備等に取り組む。		
協調性	他者の意見を聞きなが ら自分の考えを伝える 等、リーダーシップを 発揮して取り組むこと ができる。	与えられた課題を 解決するために他 者と協力して取り 組むことができる。	グループワークに 参加し、自分の考 えを他者に伝える ことができる。	グループワークに 参加する。		
専門性	保育者になる自覚 をもち、自ら率先 して保育者として の専門性を高める よう努めている。	保育実習生として 必要な知識・技術 を習得するために 自ら取り組む。	教員から指導を受 け、保育実習生に 必要な知識・技術 の習得に取り組 む。	授業に参加し、知 識・技術の習得に 取り組もうとす る。		

観察・記録	記録の意図を理解し、子どもの姿や保育者の援助について考察を述べ、保育を振り返ることができる。	保育者としての視点で観察したものを、考察をしながら書式に則って記録することができる。	教員の指導を受けながら、観察したものを記録することができる。	記録したものの期日を守って提出する。		
【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】 各演習の結果と内容に対して、口頭あるいはプリント資料によって講評を行う。						
【教科書】 『実習のてびき』 純真短期大学こども学科 各回の授業内容に沿った資料を別途プリントで配布する。 『保育所保育指針解説』 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』						
【参考書・参考資料等】 『実習日誌の書き方』 開仁志編著（一藝社） 『実践につながる新しい教育・保育実習』 大浦賢治・谷口征子著（ミネルヴァ書房） 『遊びの指導』（財）幼少年教育研究所編著（同文書院）						
【関連科目】 「保育実習Ⅰ（保育所）」 「保育実習指導Ⅰ（保育所）」 「保育実習指導Ⅱ」						
【受講心得】 遅刻、欠席の回数や受講態度、提出物の遅れなどが重なった場合は実習中止等の判断をする場合がある。						
【備考】 保育士課程必修。状況により学習進行や順番が変わる場合がある。 実習に係る諸手続き等のために、実習園を訪問することがある。						
保育士資格選択必修						
【学習項目】		担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）			
1	保育実習Ⅱの意義、目的	全員	保育実習Ⅰ（保育所）での学びを基に、保育実習Ⅱの意義や目的について学ぶ。 事前学習（0.5時間）シラバスを読んでおくこと。 事後学習（0.5時間）授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。			
2	保育士の専門性と職業倫理	全員	保育実習Ⅰ（保育所）の学びを基に、保育士の専門性や職業倫理について、考えていく。 事前学習（0.5時間）保育実習Ⅰでの気づきをまとめておくこと。 事後学習（0.5時間）授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。			
3	子どもの最善の利益を考慮した保育の実際①	全員	各々の実習での気づきや学びを共有し、深めていく。 ・子どもの観察に基づいて 事前学習（0.5時間）保育実習Ⅰでの気づきをまとめておくこと。 事後学習（0.5時間）授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。			
4	子どもの最善の利益を考慮した保育の実際②	全員	各々の実習での気づきや学びを共有し、深めていく。 ・子どもと保育者の関係性に基づいて 事前学習（0.5時間）保育実習Ⅰでの気づきをまとめておくこと。 事後学習（0.5時間）授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。			
5	子どもの最善の利益を考慮した保育の実際③	全員	各々の実習での気づきや学びを共有し、深めていく。 ・保育士としての役割について 事前学習（0.5時間）保育実習Ⅰでの気づきをまとめておくこと。 事後学習（0.5時間）授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。			

6	保育の知識・技術をいかした保育実践①	全員	保育実習Ⅰ（保育所）の学びを基礎とし、自己の課題を明確にし、保育技術の習得の向上を目指す。 事前学習（1時間）保育実習Ⅰでの気づきをまとめておくこと。 事後学習（1時間）授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。
7	保育の知識・技術をいかした保育実践②	全員	保育実習Ⅰ（保育所）の学びを基礎とし、自己の課題を明確にし、保育技術の習得の向上を目指す。 事前学習（0.5時間）保育実習Ⅰでの気づきをまとめておくこと。 事後学習（0.5時間）授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。
8	保育実習Ⅱの書類準備	全員	保育実習Ⅱで使用する書類を作成する。 事前学習（0.5時間）保育実習Ⅱでの必要書類について確認しておくこと。 事後学習（0.5時間）書類を完成させ、確認しておくこと。
9	保育の計画と実践①	全員	既習の教科目の知識、保育実習Ⅰの経験をいかしながら、指導案の作成をおこなう。 事前学習（1時間）対象年齢の保育内容について、考えておくこと。 事後学習（1時間）指導案を完成させる。
10	保育の計画と実践②	全員	既習の教科目の知識、保育実習Ⅰの経験をいかしながら、作成した指導案の評価や改善の視点を学ぶ。 事前学習（0.5時間）対象年齢の保育内容について、考えておくこと。 事後学習（1時間）指導案を完成させる。
11	実習日誌の記録①	全員	保育実習Ⅰ（保育所）の実習記録を見直し、改善点や自己の課題を見出す。また、保育実習Ⅱでさらに記録の内容が深まるようにポイントを示していく。 事前学習（1時間）実習Ⅰの日誌で指導・助言されたことを復習しておくこと。 事後学習（1時間）要点を整理しておくこと。
12	実習日誌の記録②	全員	保育実習Ⅰ（保育所）の実習記録を見直し、改善点や自己の課題を見出す。また、保育実習Ⅱでさらに記録の内容が深まるようにポイントを示していく。 事前学習（1時間）実習Ⅰの日誌で指導・助言されたことを復習しておくこと。 事後学習（1時間）要点を整理しておくこと。
13	実習の総括と自己評価	全員	保育実習の総括を行う。 事前学習（0.5時間）保育実習Ⅱをふりかえり、気づきをまとめておくこと。 事後学習（0.5時間）要点を整理しておくこと。
14	自己課題の明確化	全員	これまでの実習をふりかえり、自己の課題を明確にする。 事前学習（0.5時間）保育実習をふりかえり、気づきをまとめておくこと。 事後学習（0.5時間）自己課題を明確にし、記録しておくこと。

1 5	保育士の資質およびまとめ	全員	専門職として欠かせない保育士の資質について考えていく。 事前学習（1時間）保育士の資質について、自分なりの考えをまとめておくこと。 事後学習（1時間）気づき等をまとめておくこと。
-----	--------------	----	--

科目名		担当代表教員		学年	期別	形態	必選	単位数
保育実習指導Ⅲ		砥上 あゆみ		2	通年	演習	選択	1
		担当形態	複数		ナンバリング		CE2319	
		担当教員	砥上あゆみ、谷川知士					

【キーワード】	【概要】					
1 実習	保育実習Ⅰ（施設）をふまえて、児童福祉施設（保育所以外）についてより学びを深めます。子ども家庭福祉、社会的養護、障害児支援に対する理解を深め、支援の実際について考えていきます。その中で、保育士としての役割や業務内容、職業倫理について学び、保育実習Ⅲでの実践に結びつけていきます。					
2 施設						
3 障害						
4 社会的養護						
5 子ども家庭福祉						
【到達目標】						
1. 児童福祉施設（保育所以外）における保育士の役割や業務内容、職業倫理について理解することができる。						
2. 子どもやその家庭への理解を深め、支援しようとすることができる。						
3. 保育士としての自己課題を明確化することができる。						
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】		関連性				
【知識・理解・技能】						
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。						
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。			○			
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。						
【思考・判断・表現】						
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。			○			
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。			○			
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。						
【関心・意欲・態度】						
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。			○			
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。			○			
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。			○			
【成績評価の方法】						
成績指標	受講態度		課題提出およびレポート	合計		
評価割合（％）	30%		70%	100		
【成績評価の基準】						
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0
【評価内容】（ルーブリック）						
評価項目	4	3	2	1		
知識の習得	保育実習Ⅰ（施設）での学びをいかし、多岐にわたる内容を十分に理解している。	保育実習Ⅰ（施設）での学びをいかし、多岐にわたる内容を理解している。	保育実習Ⅰ（施設）での学びをいかし、多岐にわたる内容をやや理解している。	保育実習Ⅰ（施設）での学びをいかし、多岐にわたる内容を少し理解している。		
保育実践	保育実習Ⅰ（施設）や事前指導における学びをいかし、保育実践につなげることが十分にできている。	保育実習Ⅰ（施設）や事前指導における学びをいかし、保育実践につなげることができている。	保育実習Ⅰ（施設）や事前指導における学びをいかし、保育実践につなげることが、ある程度、できている。	保育実習Ⅰ（施設）や事前指導における学びをいかし、保育実践につなげることが少しできている。		
課題意識	保育実習Ⅰ（施設）や事前指導における学びをいかし、事例などに対して、課題意識をもって十分に考えることができている。	保育実習Ⅰ（施設）や事前指導における学びをいかし、事例などに対して、課題意識をもって考えることができている。	保育実習Ⅰ（施設）や事前指導における学びをいかし、事例などに対して、課題意識をもって考えることが、ある程度、できている。	保育実習Ⅰ（施設）や事前指導における学びをいかし、事例などに対して、課題意識をもって考えることが、少し、できている。		
レポート	課題に対して、論点を整理し自分の考えを論理的に述べるができている。	課題に対して、論点を整理し自分の考えを述べるができている。	課題に対して、自分の考えを述べるができている。	課題に対して、自分の考えを少し述べるができている。		

【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】 プリントを返却し、フィードバックを行う。		
【教科書】 65期生「実習の手引き」 その他、適宜プリント、資料を配布します。		
【参考書・参考資料等】 講義内で紹介します。		
【関連科目】 「保育実習Ⅲ」「子ども家庭福祉」「社会的養護Ⅰ」「社会的養護Ⅱ」「特別支援教育Ⅰ」「特別支援教育Ⅱ」		
【受講心得】 様々な児童福祉施設に興味をもち、意欲的に参加してください。遅刻・欠席、提出物の遅れなどが多い場合には、実習に関する指導が十分でないと判断し、実習を中止とすることがあります。		
【備考】		
【学習項目】	担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1 保育実習Ⅰ（施設）の振り返り①	全員	<学習内容>保育実習Ⅰ（施設）でのふりかえりを行う。 同じ種別のみでなくさまざまな種別で実習を行った学生とふりかえりを共有し、支援のあり方や施設の役割等について考える。 <事前学習>実習日誌を読み返し、実習で感じたことや学んだことをふりかえっておく。（1時間） <事後学習>授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。（30分）
2 保育実習Ⅰ（施設）の振り返り②	全員	
3 保育実習Ⅲの意義と目的	全員	<学習内容>保育実習Ⅲでは、どのような学びをし、保育実習Ⅰ（施設）をふまえてどのように学びを深めていくのかを学ぶ。 <事前学習>シラバス（講義要項）に目を通しておく。（30分） <事後学習>授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。（30分）
4 児童福祉施設の役割と機能について	全員	<学習内容>児童福祉施設（保育所以外）の役割と機能について学ぶ。 <事前学習>社会的養護Ⅰでの学びを振り返っておく。（30分） <事後学習>授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。（30分）
5 子ども家庭福祉、社会的養護、障害児支援の実際	全員	<学習内容>施設における支援の実際について学ぶ。 <事前学習>社会的養護Ⅰでの学びを振り返っておく。（30分） <事後学習>授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。（30分）
6 児童福祉施設における保育士の役割と職業倫理	全員	<学習内容>児童福祉施設（保育所以外）の特性をふまえて、保育士としての役割と職業倫理について考える。 <事前学習>保育士の役割や倫理とは何か考えておく。（30分） <事後学習>授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。（30分）
7 子どもの最善の利益を考慮した保育	全員	<学習内容>子どもの最善の利益とは何か。保育士としてどのような視点で考えていけばよいのかを検討する。 <事前学習>子ども家庭福祉の教科書を確認しておく。（30分） <事後学習>授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。（30分）

8	子どもの姿とその背景にあるもの	全員	<学習内容>児童福祉施設（保育所以外）に入所している子どもたちへの理解とその背景にある家庭、社会について考える。 <事前学習>児童福祉施設（保育所以外）にはどのような子どもたちが入所しているのかを確認しておく。（30分） <事後学習>授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。（30分）
9	実習施設について理解を深める	全員	<学習内容>自分が実習する施設について調べ、理解を深める。 <事前学習>必要な本などを図書館で借りて準備しておく。（30分） <事後学習>授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。（30分）
1 0	実習の目標 実習生調書作成	全員	<学習内容>実習の目標について考え、グループで発表する。また、実習生調書の作成を行う。 <事前学習>実習施設について調べた資料や、調書に記入する際に必要な情報をまとめておく。（30分） <事後学習>授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。（30分）
1 1	実習日誌について 子どもを観る視点	全員	<学習内容>施設における日誌の書き方や、子どもを観る際の視点、大切にしたい視点などを学ぶ。 <事前学習>実習の手引きを確認しておく。（30分） <事後学習>授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。（30分）
1 2	保育実習Ⅲの振り返り①	全員	<学習内容>保育実習Ⅲのふりかえりを行う。同じ種別のみでなくさまざまな種別で実習を行った学生とふりかえりを共有し、支援のあり方や施設の役割等について考える。 <事前学習>実習日誌を読み返しておく。（30分） <事後学習>授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。（30分）
1 3	保育実習Ⅲの振り返り②	全員	
1 4	児童福祉施設における保育の実際と今後の展望	全員	<学習内容>実習で学んだことを中心に、児童福祉施設（保育所以外）における保育の実際について考え、課題や今後の展望について意見交換する。 <事前学習>実習で見えてきた課題についてまとめておく。（30分） <事後学習>授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。（30分）
1 5	実習の総括と自己評価・課題の明確化	全員	<学習内容>自分自身の実習の総括を行い、自己評価をする。また、個々の課題を明確化し、何が必要なのかを考える。 <事前学習>実習のふりかえりを見返しておく。（30分） <事後学習>授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。（30分）

科目名		担当代表教員		学年	期別	形態	必選	単位数
教育実習Ⅱ		谷川 裕子		2	前期	実習	選択	2
		担当形態	複数	ナンバリング			CE2320	
		担当教員	谷川裕子、青沼典子					

【キーワード】		【概要】						
1	教育実習	・ 保育観察と参加をしながら、部分的な設定保育や全日実習など、子どもを対象にしたより具体的な保育実践に取り組み、教育実習Ⅰの経験と学びを深める。 ・ 子どもの発達理解や心情理解をもとに、子どもとの信頼を深める実践的ななかかわりを大切にしつつ、クラス集団を対象とした保育や指導について「保育のねらい」を明確にした指導計画を立案し、部分実習や全日実習に取り組む。 ・ 保育環境の整備や教員間の連携や協同、家庭や地域との連携など多岐にわたる幼稚園教諭の業務内容について理解を深める。						
2	幼稚園							
3	幼稚園教諭							
4	実地体験							
5	保育実践							
【到達目標】								
1. 指導計画をもとに保育のねらいを達成するための適切な教材研究や準備、練習等に取り組むことができる。								
2. 設定保育や全日実習の保育実践の結果を振り返り、指導計画の修正や改善の手がかりを捉えて次の保育実践に生かすことができる。								
3. 幼稚園教諭の多岐にわたる教育活動や教員間の連携等の理解を深め、実習以降の学習課題を明確にすることができる。								
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】								関連性
【知識・理解・技能】								
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。								
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。								
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。								
【思考・判断・表現】								
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。								○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。								○
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。								
【関心・意欲・態度】								
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。								
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。								○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。								○
【成績評価の方法】								
成績指標		実習園の評価			実習に対する取り組み			合計
評価割合（％）		80％			20％			100
【成績評価の基準】								
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下			
評語	S	A	B	C	E	F		
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0		

【評価内容】（ルーブリック）						
評価項目	4	3	2	1		
実習園の評価	非常に優れている	優れている	適切である	努力を要する		
実習日誌	保育に対する考察が十分になされている	指摘を受けた箇所を改善しようと努力している	毎日、丁寧に読みやすく書いている	毎日提出している		
態度・行動	自分自身の課題を見付け積極的に実習をする	決められた課題に取り組み実習をする	教員の指導を受けて自ら改善し実習をする	教員から多くの指導・助言を受けて実習をする		
【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】 実習園の指示に従う。						
【教科書】 『実習の手引き』（純真短期大学こども学科） 『幼稚園教育要領解説』 文部科学省（フレール館）						
【参考書・参考資料等】 『保育指導案大百科事典』 開仁志編著（一藝社） 『遊びの指導』（財）幼少年教育研究所編著（同文書院）						
【関連科目】 「教育実習指導」 「教育実習Ⅰ」						
【受講心得】 ・職業倫理を守り、子どもの人権を尊重することを心がける。 ・実習現場である幼稚園の教育方針を理解し、実習生といえどもその園の「一教員」として子どもの前に立つ自覚を持つ。 ・謙虚な態度をもって実習園のメンター教員の指導・助言を受け、学びを得る努力をする。						
【備考】 幼稚園教諭免許 選択必修						
【学習項目】						
	※2週間の実習期間の中で、実習園のスケジュールや保育内容等に合わせて以下の実習内容を履修する。 ①実習園の概要と1日の園生活の流れを把握する。 ②個々の子どもの心情理解に努め、信頼関係を構築する。 ③遊びや園生活の中で積極的に子どもとかかわりコミュニケーションを図る。 ④参与観察や子どもとの関わりを通して子どもの実態把握や遊びや活動に関する子どものニーズを汲み取る。 ⑤クラス集団を対象したメンター教員の保育の工夫や配慮の意図を考察する。 ⑥保育環境構成の意図や工夫を学ぶ ⑦保育のねらいを立て指導計画を立案し指導案を記述する。 ⑧指導計画に沿って準備とシミュレーションを入念に取り組む。 ⑨指導計画をもとに設定保育や全日実習に取り組む。 ⑩保育実践について振り返り、反省会等でメンター教員からの指導、助言、評価を受ける。 ⑪教育活動の終了後に行う教育活動（家庭や地域との連携、子育て支援活動など）について、メンター教員の指導のもと可能な限り取り組み、指導や助言を受ける。 【事前学習】実習園との事前打ち合わせ・オリエンテーションで提示された事前準備や課題、練習をする。（絵本の選定、手遊び・歌遊びの練習、ピアノの練習など） 3時間 【事後学習】実習中毎日、日誌の記入とともに、実習の振り返り、責任保育のブラッシュアップする。1時間					

科目名		担当代表教員		学年	期別	形態	必選	単位数
教育インターンシップ		青沼 典子		2	前期	実習	選択	2
		担当形態	複数	ナンバリング		CE2321		
		担当教員	青沼典子、飯塚恭一郎、谷川裕子					

【キーワード】		【概要】	
1	教育実習	子どもとのかかわりやメンター教諭のサポートとして保育に参加することを軸にしながら、園行事や預かり保育といった通常の短期間の実習では体験できない保育や教員同士の連携作業、園の業務に可能な限り参加していく。そして幅広く幼稚園の役割と幼稚園教諭の業務内容を実践的な体験から学ぶ。また、長期に渡る子どもの観察から成長と発達の変化の有り様を理解し、そこに寄り添う幼稚園教諭の仕事のやりがいを実感する。	
2	幼稚園		
3	幼稚園教諭		
4	インターンシップ		
5	保育実践		

【到達目標】

1. 園の業務に参加して幼稚園の役割を理解することができる。

2. 一教員としての気持ちを持って幼稚園の業務に参加することができる。

3. 保育時間外の多岐にわたる準備、打ち合わせ等や教員間の報告・連絡・相談の重要性をより深く理解することができる。

【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】		関連性
【知識・理解・技能】		
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。		
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。		
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。		○
【思考・判断・表現】		
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。		○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。		○
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。		
【関心・意欲・態度】		
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。		
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。		○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。		○

【成績評価の方法】			
成績指標	実習園の評価	実習に対する取り組み	合計
評価割合（％）	80%	20%	100

【成績評価の基準】

評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0

【評価内容】（ルーブリック）						
評価項目	4	3	2	1		
実習園の評価	非常に優れている	優れている	適切である	努力を要する		
実習日誌	保育に対する考察が十分になされている	指摘を受けた個所を改善しようと努力している	毎日丁寧に読みやすく書いている	毎日提出している		
態度・行動	自分自身の課題を見つけ積極的に実習をする	決められた課題に取り組む実習をする	教員の指導を受けて自ら改善し実習をする	教員から多くの指導を受けて実習をする		
【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】 実習園の指示に従う。						
【教科書】 『実習の手引き』（純真短期大学こども学科） 『幼稚園教育要領解説』 文部科学省（フレーベル館）						
【参考書・参考資料等】 『保育指導案大百科事典』 開仁志編著（一藝社） 『遊びの指導』（財）幼少年教育研究所編著（同文書院）						
【関連科目】 「教育実習指導」 「教育実習Ⅰ」						
【受講心得】 ・職業倫理を守り、子どもの人権を尊重することを心がける。 ・実習現場である幼稚園の教育方針を理解し、実習生といえどもその園の「一教員」として子どもの前に立つ自覚を持つ。 ・謙虚な態度をもって実習園のメンター教員の指導・助言を受け、学びを得る努力をする。						
【備考】 幼稚園教諭免許 選択必修						
【学習項目】						
	※実習期間の中で、実習園のスケジュールや保育内容等に合わせて以下の実習内容を履修する。 ①実習園の概要と1日の園生活の流れを把握する。 ②個々の子どもの心情理解に努め、信頼関係を構築する。 ③遊びや園生活の中で積極的に子どもとかわりコミュニケーションを図る。 ④参与観察や子どもとの関わりを通して子どもの実態把握や遊びや活動に関する子どものニーズを汲み取る。 ⑤クラス集団を対象したメンター教員の保育の工夫や配慮の意図を考察する。 ⑥保育環境構成の意図や工夫を学ぶ ⑦保育のねらいを立て指導計画を立案し指導案を記述する。 ⑧指導計画に沿って準備とシミュレーションを入念に取り組む。 ⑨指導計画をもとに設定保育や全日実習に取り組む。 ⑩保育実践について振り返り、反省会等でメンター教員からの指導、助言、評価を受ける。 ⑪教育活動の終了後に行う教育活動（家庭や地域との連携、子育て支援活動など）について、メンター教員の指導のもと可能な限り取り組み、指導や助言を受ける。 【事前学習】 実習園との事前打ち合わせ・オリエンテーションで提示された事前準備や課題、練習をする。（業務の準備、絵本の選定、手遊び・歌遊びの練習、ピアノの練習など） 3時間 【事後学習】 インターンシップ中、本学指導教員に中間報告を行う。また、終了後、出勤簿及び活動記録日誌を指導教員に提出・報告を行い、実習のまとめとする。3時間					

科目名		担当代表教員		学年	期別	形態	必選	単位数
レクリエーション実技		春田 智明		2	通年	演習	選択	1
		担当形態	単独	ナンバリング			CE2402	
		担当教員	春田智明					

【キーワード】		【概要】	
1	コミュニケーション	既習のレクリエーション理論や方法をふまえつつ、対象者や目的に合わせたレクリエーションを企画・展開できるレクリエーションの活動や支援について、現場を想定しながら実技や演習を通して学ぶ。	
2	ホスピタリティ		
3	健康づくり		
4	遊び		
5	楽しさ		

【到達目標】			
1. レクリエーション支援の方法と活動の展開方法を身に付けることができる。			
2. レクリエーション支援のために活用しやすいプログラムとレクリエーション活動を身に付けることができる。			
3. 対象者や活動現場を想定したレクリエーション支援を実施し、評価し、改善することができる。			

【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】			関連性
【知識・理解・技能】			
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。			
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。			
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。			○
【思考・判断・表現】			
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。			
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。			
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。			○
【関心・意欲・態度】			
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。			
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。			○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。			

【成績評価の方法】			
成績指標	定期試験	受講態度等	合計
評価割合（％）	80	20	100

【成績評価の基準】						
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0

【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】						
試験終了後、模範解答とコメントを返答する。						

【教科書】						
適宜資料配布・紹介する。						

【参考書・参考資料等】						
『楽しさをとおした心の元気づくり～レクリエーション支援の基本の理論と方法～』 日本レクリエーション協会						

【関連科目】						
「レクリエーション理論」「レクリエーション実技」「子どもと表現」						

【受講心得】						
本学の学生としてふさわしい受講姿勢にて。						

【備考】			
レクリエーション・インストラクター課程必修			
【学習項目】		担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1	信頼関係づくりの方法とホスピタリティ①		<学習内容>ホスピタリティトレーニング <事前学習>テキストに目を通しておくこと（1時間） <事後学習> 生活の場での実践練習（各々の時間）
2	信頼関係づくりの方法とホスピタリティ②		<事前学習>テキストに目を通しておくこと（1時間） <事後学習> 生活の場での実践練習（各々の時間）
3	良好な集団作りの方法とアイスブレイキング①		<学習内容>集団がまとまる仕組みを学ぶ <事前学習>テキストに目を通しておくこと（1時間） <事後学習>生活の場での実践（各々の時間）
4	良好な集団作りの方法とアイスブレイキング②		<事前学習>テキストに目を通しておくこと（1時間） <事後学習>生活の場での実践（各々の時間）
5	自主的、主体的に楽しむ力を高める展開方法①		<学習内容>複数回の成功体験を楽しむ <事前学習>テキストに目を通しておくこと（1時間） <事後学習>生活の場での実践（各々の時間）
6	自主的、主体的に楽しむ力を高める展開方法②		<事前学習>テキストに目を通しておくこと（1時間） <事後学習>生活の場での実践（各々の時間）
7	レクリエーション支援のためのプログラムと活動の習得①		<学習内容>プログラム計画 <事前学習>テキストに目を通しておくこと（1時間） <事後学習>生活の場での実践（各々の時間）
8	レクリエーション支援のためのプログラムと活動の習得②		<事前学習>テキストに目を通しておくこと（1時間） <事後学習>生活の場での実践（各々の時間）

9	レクリエーション支援のための プログラムと活動の習得③		<学習内容>
10	レクリエーション支援の実施①		<事前学習>テキストに目を通しておくこと（1時間） <事後学習>生活の場での実践（各々の時間）
11	レクリエーション支援の実施②		<学習内容>プログラムの実施・振り返り
12	レクリエーション支援の実施③		<事前学習>テキストに目を通しておくこと（1時間） <事後学習>生活の場での実践（各々の時間）
13	レクリエーション支援の実施④		<学習内容>プログラムの実施・振り返り
14	レクリエーション支援の実施⑤		<事前学習>テキストに目を通しておくこと（1時間） <事後学習>生活の場での実践（各々の時間）
15	レクリエーション支援の実施⑥		<学習内容>プログラムの総括 <事前学習>テキストに目を通しておくこと（1時間） <事後学習>生活の場での実践（各々の時間）
16	定期試験		

科目名		担当代表教員		学年	期別	形態	必選	単位数
子ども家庭支援論		砥上 あゆみ		2	後期	講義	選択	2
		担当形態	単独	ナンバリング		CE2201		
		担当教員	砥上 あゆみ					

【キーワード】		【概要】	
1	子育て家庭	・子育て家庭を取り巻く社会的状況を理解し、保育士の専門性を生かした家庭支援の意義・目的について学習する。また、保育士として求められる基本や役割について理解を深める。 ・子育て家庭の福祉を図るための法制度や社会資源、他機関との連携等についても知識を深める。 ・専門的な知識や保育技術をいかした家庭支援の事例にふれ、子育て家庭のニーズに応じた多様な支援を実践するための力を身につけることを目的とする。	
2	子育て支援		
3	社会資源		
4	連携・協働		
5	子育て支援施策		

【到達目標】	
1. 子育て家庭の現状や課題を踏まえ、保育士の専門性を生かした家庭支援の意義、役割を理解できる。	
2. 子育て支援施策や子育て家庭の福祉を図る社会資源について、説明することができる。	
3. 保育者としての専門的な視点で子育て支援を捉え、支援の実際について考えることができる。	

【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】		関連性
【知識・理解・技能】		
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。		
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。		
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。		
【思考・判断・表現】		
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。		○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。		○
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。		
【関心・意欲・態度】		
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。		○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。		○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。		○

【成績評価の方法】				
成績指標	試験	課題・レポート提出	受講態度	合計
評価割合（％）	40%	30%	30%	100

【成績評価の基準】						
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0

【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】	
提出された課題等については、返却を行い、授業内で要点を確認する。	

【教科書】	
井村圭壯・今井慶宗編著『保育と子ども家庭支援論』勁草書房	

【参考書・参考資料等】	
大豆生田啓友『ちょっとした言葉かけで変わる保護者支援の新ルール10の原則』メイト	
亀崎美沙子『保育の専門性を生かした子育て支援「子どもの最善の利益」をめざして』	

【関連科目】	
「子ども家庭支援の心理学」	

【受講心得】 現代の家庭・家族の抱える諸問題について真剣に考えてほしい。専門職である保育者がおこなう子育て家庭支援の役割を理解し実践につながるように、主体的に臨んでほしい。		
【備考】 保育士資格必修		
【学習項目】	担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1 子ども家庭支援の意義と必要性		子ども家庭への支援の必要性とされている背景について知識を深め、その意義について理解する。事前学習（0.5時間）シラバスを読み、わからない言葉は意味を調べておく。事後学習（1時間）授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。
2 子ども家庭支援の目的と機能		子ども家庭支援の目的を理解し、保育所の機能や役割を考えていく。事前学習（0.5時間）教科書を読んでおくこと。事後学習（1時間）授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。
3 保育士による子ども家庭支援の意義と基本①		保育の専門性をいかした保育士による子ども家庭支援の基本について、日常の保育や具体的な事例を通して理解を深めていく。事前学習（0.5時間）教科書を読んでおくこと。事後学習（1時間）授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。
4 保育士による子ども家庭支援の意義と基本②		保育の専門性をいかした保育士による子ども家庭支援の基本について、日常の保育や具体的な事例を通して理解を深めていく。事前学習（0.5時間）教科書を読んでおくこと。事後学習（1時間）授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。
5 保育士による子ども家庭支援の意義と基本③		保育の専門性をいかした保育士による子ども家庭支援の基本について、日常の保育や具体的な事例を通して理解を深めていく。事前学習（0.5時間）教科書を読んでおくこと。事後学習（1時間）授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。
6 保育士に求められる基本的態度		保育士に求められる基本的態度について学ぶ。事前学習（0.5時間）教科書を読んでおくこと。事後学習（1時間）授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。
7 家庭の状況に応じた支援		多様化する家族の状況とともに、支援のニーズも多岐にわたっている現状を理解し、支援の在り方について考えていく。事前学習（0.5時間）教科書を読んでおくこと。事後学習（1時間）授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。
8 地域の資源の活用と自治体・関係機関等との連携・協力		地域や関係機関との連携・協力が求められているその背景を理解し、保育士としての役割を考えていく。事前学習（0.5時間）教科書を読んでおくこと。事後学習（1時間）授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。

9	子育て家庭の福祉を図るための社会資源		子育て家庭の福祉を図る社会資源（公的・私的）の役割について学ぶ。事前学習（0.5時間）教科書を読んでおくこと。事後学習（1時間）授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。
1 0	子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進		これまでの子育て支援施策・次世代育成支援施策にふれ、歴史的変遷や課題への理解を深めていく。事前学習（0.5時間）教科書を読んでおくこと。事後学習（1時間）授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。
1 1	子育て家庭への支援の実際①		保育所等を利用する子ども家庭への支援について学ぶ。事前学習（0.5時間）教科書を読んでおくこと。事後学習（1時間）授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。
1 2	子育て家庭への支援の実際②		地域の子育て家庭への支援を担う保育所等の実践について、その役割を理解する。事前学習（0.5時間）教科書を読んでおくこと。事後学習（1時間）授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。
1 3	特別な支援や配慮を要する家庭支援①		特別な支援や配慮を要する家庭への支援の基本について学ぶ。事前学習（0.5時間）教科書を読んでおくこと。事後学習（1時間）授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。
1 4	特別な支援や配慮を要する家庭支援②		特別な支援や配慮を要する家庭への支援について、具体的に考える。事前学習（0.5時間）教科書を読んでおくこと。事後学習（1時間）授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。
1 5	子ども家庭支援に関する現状と課題		子ども家庭支援に関する現状と課題をふまえ、保育者の専門性をいかした子育て家庭支援について、考えていく。事前学習（0.5時間）教科書を読んでおくこと。事後学習（1時間）授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。
1 6	定期試験		

科目名		担当代表教員		学年	期別	形態	必選	単位数
保育内容（環境）		川崎 徳子		2	後期	演習	選択	1
		担当形態	単独		ナンバリング		CE2311	
		担当教員	川崎 徳子					

【キーワード】		【概要】	
1	環境	子どもを取り巻く環境や子どもと環境との関わりについて、「子どもと環境」で学んだ知識や感性を踏まえ、子どもの発達や学びの過程を理解する。具体的な指導場面を想定し、実践する力を身に付ける。また、子どもが環境と関わり、何を思考し発見しているのかを理解するため、実際の保育場面を映した視聴覚教材やパワーポイント・ペープサート・パネルシアター等から学ぶ。	
2	自然		
3	物的環境		
4	数量		
5	標識・文字		

【到達目標】	
1. 子どもの生活や遊びと保育内容について理解し、領域「環境」のねらいや内容について全体構造が理解できる。	
2. 実際の保育場面や事例を通して、子どもが経験している内容や学びの発達の姿を説明できる。	
3. 具体的な保育を想定した指導案を作成し、模擬保育や振り返りを通して保育を改善する視点が理解できる。	

【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】		関連性				
【知識・理解・技能】						
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。		○				
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。						
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。		○				
【思考・判断・表現】						
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。		○				
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。						
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。		○				
【関心・意欲・態度】						
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。		○				
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。						
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。		○				
【成績評価の方法】						
成績指標	定期試験	課題・レポート	受講態度	合計		
評価割合（％）	60	20	20	100		
【成績評価の基準】						
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0

【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】	
授業内の課題・レポート等は、授業内で説明・講評をする。	
定期試験については、模範解答を提示する。	

【テキスト】	
『領域「環境」』無藤隆監修 福元真由美編者代表 萌文書林	

【参考書・参考資料等】	
『幼稚園教育要領解説』 文部科学省 フレーベル館 『保育所保育指針解説』 厚生労働省 フレーベル館	
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館	
授業中に随時参考図書・絵本等を紹介、適宜資料も配布する。	

【関連科目】	
「子どもと環境」「保育内容総論」「保育内容全般」	

【受講心得】 指導案作成、模擬保育、事例検討などでICT利活用を積極的に試みること。 毎回、授業内容や配布資料を整理しノートにまとめるなど、日常の学習を大切にすること。 実習や保育現場で応用できるように学習すること。 幼稚園教育要領、保育所保育指針を熟読すること。		
【備考】 幼稚園教諭免許必修、保育士資格必修		
【学習項目】	担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1 オリエンテーション 幼児教育の基本と保育内容「環境」とは		〈学習内容〉授業概要、受講の心得（到達目標、受講態度、評価など）についてシラバスを中心に学ぶ。前期科目『子どもと環境』を復習し、領域のねらいや内容を確認する。 〈事前学習〉シラバスを読んでおくこと。幼稚園教育要領の領域「環境」のねらいを読んでおくこと。（30分） 〈事後学習〉内容①～⑫のポイントが説明できるように、振り返りをしておくこと。（30分）
2 幼児期にふさわしい環境・環境構成の実際		〈学習内容〉教育課程や保育計画、長期・中期・短期指導計画について意義・意味を確認する。具体的指導計画（部分保育指導案）を基に環境構成の実際について考える。 〈事前学習〉関連教科や実習等で学んだ指導計画について復習しておくこと。（30分） 〈事後学習〉学習内容を振り返り、資料等を整理してノートにまとめておくこと。（30分）
3 「環境」のねらい・内容の展開の実際①（園内）		〈学習内容〉部分保育指導案（園内）の例を基に、保育の流れと保育者としての役割（環境の構成や援助）を考える。幼稚園教育要領の内容①～⑫について概要を振り返り留意点を再確認する。 〈事前学習〉幼稚園教育要領の内容①～⑫を読んでおくこと。（30分） 〈事後学習〉学習内容を振り返り、資料等を整理してノートにまとめておくこと。（30分）
4 「環境」のねらい・内容の展開の実際②（園外）		〈学習内容〉部分保育指導案（園外）の例を基に、保育の流れと保育者としての役割（環境の構成や援助）を考える。部分保育指導案作成と模擬保育に向けてグループ分けと担当テーマを決定する。 〈事前学習〉担当する部分保育指導案を構想しておくこと。（30分） 〈事後学習〉部分保育指導案を作成し、提出できるようにしておくこと。（30分）
5 自然に親しみ、植物に触れる保育①（計画立案）		〈学習内容〉自然に親しんだり季節の変化に気付いたりする保育について、意義と留意点を考える。自然に親しむ保育の指導案を立案する。 〈事前学習〉自然に親しむ保育の部分保育指導案を構想しておくこと。（30分） 〈事後学習〉自然に親しむ保育の部分保育指導案を作成し、提出できるようにしておくこと。（30分）
6 自然に親しみ、植物に触れる保育②（栽培実践）		〈学習内容〉植物を大切に育てる保育活動などを通して命の大切さを伝えたり、生き物に関心を深めたりする保育について、意義と留意点を考える。自然に親しむ保育の模擬保育を実践し、振り返りを行って改善点を全員で共有する。 〈事前学習〉模擬保育の準備をしておくこと。（30分） 〈事後学習〉生き物や飼育・栽培、命に触れる保育について部分保育指導案を作成し、提出できるようにしておくこと。（30分）

7	自然に親しみ、植物に触れる保育③ (考察・改善・振り返り)		〈学習内容〉飼育・栽培、命に触れる保育などに関する模擬保育を実践し、振り返りを行って改善点などを全員で共有する。 〈事前学習〉模擬保育の準備を行っておくこと。(30分) 〈事後学習〉学習内容を振り返り、重要な点などをまとめておくこと。(30分)
8	標識、文字等に関わる保育の実践 (パワーポイント等視覚教材の活用)		〈学習内容〉標識、文字への関心を高める保育の在り方を考え、特に視覚的教材を使うなどの工夫をした保育の実践を学ぶ。模擬保育を実践し、振り返りを行って改善点などを共有する。 〈事前学習〉模擬保育の準備を行っておくこと。(30分) 〈事後学習〉学習内容を振り返り、重要な点などをまとめておくこと。(30分)
9	数量、図形等に関わる保育の実践 (ペープサート・パネルシアターの活用)		〈学習内容〉数量・図形に関する概念の形成を促す保育の在り方を考え、児童文化財などを使った保育の実践を学ぶ。数量・図形に関する保育の模擬保育を実践し、振り返りを行って改善点などを共有する。 〈事前学習〉模擬保育の準備を行っておくこと。(30分) 〈事後学習〉学習内容を振り返り、重要な点などをまとめておくこと。(30分)
10	身近な情報、日本文化や異文化に触れる活動		〈学習内容〉幼児期に伝統文化に触れ、異文化理解に資する保育の在り方、また、情報や社会に関心をもつような保育の在り方について考え、児童文化財などを使った保育の実践を学ぶ。伝統文化・情報などに関する模擬保育を実践し、振り返りを行って改善点などを共有する。 〈事前学習〉模擬保育の準備を行っておくこと。(30分) 〈事後学習〉学習内容を振り返り、重要な点などをまとめておくこと。(30分)
11	身近な素材や自然物を活用した保育の実践① (計画立案)		〈学習内容〉身近な素材にかかわる保育、自然物を活用した保育について、環境の構成や保育者の援助、留意点などを考える。児童文化財や教材などを使って保育が豊かになるように工夫した指導案を立案する。 〈事前学習〉児童文化財や教材など、豊かな保育を展開する方法を考えておくこと。(30分) 〈事後学習〉教材研究や見本の作成などを行って、模擬保育の準備をしておくこと。(30分)
12	身近な素材や自然物を活用した保育の実践② (模擬保育)		〈学習内容〉身近な素材にかかわる保育について模擬保育を実践し、振り返りを行って改善点などを共有する。 〈事前学習〉教材研究や見本の作成など、模擬保育の準備を行うこと。(30分) 〈事後学習〉学習内容を振り返り、重要な点などをまとめておくこと。(30分)
13	身近な素材や自然物を活用した保育の実践③ (模擬保育)		〈学習内容〉自然物にかかわる保育について模擬保育を実践し、振り返りを行って改善点などを共有する。 〈事前学習〉教材の準備と模擬保育の準備をしておくこと。(30分) 〈事後学習〉学習内容を振り返り重要な点などをまとめておくこと。(30分)

1 4	身近な素材や自然物を活用した保育の実践④ (考察・改善・振り返り)		〈学習内容〉自然物にかかわる保育について模擬保育を実践し、振り返りを行って改善点などを共有する。また、自己の保育を振り返り、今後の課題をまとめる。 〈事前学習〉教材の準備と模擬保育の準備をしておくこと。(30分) 〈事後学習〉学習内容を振り返り、重要な点などをまとめておくこと。(30分)
1 5	環境に関わる現代的課題 (障がいのある幼児に配慮した指導含む) 授業の振り返りとまとめ		〈学習内容〉領域環境に関わる現代的課題に着目して、具体的な援助や環境の構成の在り方について考える。 1回～14回の授業を振り返り、補足やまとめを行う。 〈事前学習〉資料の整理やノートのとまとめを行い、持参できるように準備しておくこと。(30分) 〈事後学習〉授業内容を復習し、概要を説明できるようになっておくこと。また、定期試験に対応できるように準備しておくこと。(30分)
1 6	定期試験		

科目名	担当代表教員	学年	期別	形態	必選	単位数
保育内容（言葉）	青沼 典子	2	後期	演習	選択	1
	担当形態	単独		ナンバリング		CE2304
	担当教員	青沼 典子（実務家）				

【キーワード】	【概要】
1 コミュニケーション	人間にとって大切な言葉の機能と教育目標との関係性及び保育内容「言葉」のねらいについて体験的なワークを交えて学び、保育内容「言葉」の発達に関する基本的な事項の理解を探ります。また、絵本を中心に物語性やイメージを大切にされた保育内容とその指導計画及び展開について演習を取り入れながら実践的に学習します。また、小学校との連携に関する基本的な考えについて学びを深めます。
2 絵本	
3 分析力	
4 児童文化財	
5 総合 活動	

【到達目標】

1. 子どもの言葉の発達過程を理解し、その育ちの中での周囲の関わり方の重要性を説明することが出来る。
2. 保育の場面に於いて保育者がどのような言葉や姿勢で関われば良いか判断出来る。
3. 言葉によってイメージを共有し、表現する力を育てる保育内容を考え指導できる。

【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】	関連性
【知識・理解・技能】	
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。	
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。	
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。	
【思考・判断・表現】	
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。	○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。	
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。	○
【関心・意欲・態度】	
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。	
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。	○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。	

【成績評価の方法】

成績指標	定期テスト	課題、提出物・受講態度、	協調性	合計
評価割合（％）	50	30	20	100

【成績評価の基準】

評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0

【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】

小テストは模範解答、コメント添付。解説をし、やり直しをさせていく

【教科書】

『事例で学ぶ保育内容 領域 言葉』 萌文書林

【参考書・参考資料等】

『保育と絵本』 エイデル研究所

【関連科目】

「子どもと言葉」「子どもの心理学」 保育関連科目全般

【受講心得】

言葉の成り立ち、子どもへの関わりが言葉、心を育てることを理解し受講する。協調性を持って演習に臨む

【備考】			
卒業必修科目 幼保資格必修			
【学習項目】		担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1	オリエンテーション（人と言葉）		【学習内容】保育所保育指針を持参させる。言葉のねらい、ねらいと内容を読む。1年生の時の子どもと言葉で学んだことを振り返る。10の姿と言葉のねらいに沿った学習を意識づける。 （事前学習）シラバスを読んできておく。言葉の授業に対し、大まかにわかっておく。（30分） （事後学習）本日の学びの復習（30分）
2	言語文化財とは		【学習内容】領域言葉のねらいを書き取りする。3歳未満児、3歳以上児のねらいの違いを意識づける。言語文化財について紹介する。 （事前学習）保育指針言葉のねらいを読む。（30分） （事後学習）内容を書き加える（30分）
3	絵本の基本を学ぶ		【学習内容】絵本の基本的な扱い方、読む前の準備、読み方など、を学ばせる。子どもにとっての言葉を楽しむ育てる一つとしての基本をしっかり学ばせる。次回から個人パネルを作ることを伝え、意識させる。 （事前学習）指定されたテキストの章を読む（30分） （事後学習）題材探しをしておく（30分）
4	言葉の感覚やイメージを育む保育実践 ①パネルシアター作り		【学習内容】パネルシアターづくり個人パネルを作る。（現場に持って行けるようなもの。） （事前学習）てあそび練習、指定されたテキストの章を読む。（30分） （事後学習）てあそび練習（30分）
5	②パネルシアター作り		【学習内容】パネルシアター作り、個人作品。卒業後、現場に持って行けるような作品にしていく （事前学習）作品の目安を付ける（30分） （事後学習）作品作り続き（30分）
6	③パネルシアター仕上げ		【学習内容】作品作り仕上げ （事前学習）仕上げていけるようなめど作り（30分） （事後学習）
7	絵本の分析①		【学習内容】1冊の本を取り上げ、そこから作者の意図や思い、画家の思い、遊び心などを深く読み取っていく。分析を通してただ読むだけではなく、自分自身の気づきが子どもに伝わっていくことを理解する （事前学習）絵本の基本を振り返る（30分） （事後学習）感想、反省レポート、絵本の分析に向けて前もって読んでおく本を伝える（30分）
8	絵本の分析②		【学習内容】小テスト解説、コメント、やり直し。絵本の分析についての解説、読み込みの大切さを学ぶ 昔話について、同じ話でも内容や結末の違いについて分析し、考察する。グループワークで考えを出し合い、気づきを深める （事前学習）絵本を何回も読み、読み込みを深める。（30分） （事後学習）まとめのレポート（30分）
9	絵本からの展開③発表		【学習内容】個人パネルの指導案、又は台本を作りパネルの実践発表をする。グループに分けて、お互いに発表しあう （事前学習）指導案、または台本を作る（30分） （事後学習）まとめのレポート（30分）

10	「言葉」 総合活動劇表現		【学習内容】クラス全体での劇活動について企画、配役決め、準備など (事前学習) まとめレポート (30分) (事後学習) 今後の見通し、グループで (30分)
11	「言葉」 総合活動劇表現		【学習内容】制作準備、練習、手直し (事前学習) 下準備をする (30分) (事後学習) 手直しなど (30分)
12	「言葉」 総合活動 劇表現		【学習内容】準備、練習、手直し合同練習。 (事前学習) 制作準備、練習 (30分) (事後学習) 発表に向けての反省や、準備 (30分)
13	「言葉」 総合活動 劇発表		【学習内容】保育園の園児を招待して、劇の発表会をする。子どもの前で全力の発表をする。 (事前学習) 舞台設定を協力して行う。(30分) (事後学習) 振り返り、レポート提出 (30分)
14	実践についての振り返り、フィードバック (5領域と活動の関連、分析)		【学習内容】総合活動劇表現、実践についてのふりかえり、保育園からの感想、助言、教員からのフィードバック、自分たちの反省と次への課題 (事前学習) レポートを書く。(30分) (事後学習) レポートを仕上げる。(30分)
15	領域「言葉」と特別なニーズを持つ子ども		【学習内容】言葉の気になる子についての学び 乳幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿 領域「言葉」についての振り返り、まとめ (事前学習) テキストの指定された章を読む (30分) (事後学習) 振り返りのまとめをする。(30分)
16	定期テスト		

【実務家教員】

フリガナ	アオヌマ ノリコ	こども学科 教授
氏 名	青沼 典子	
実 務 経 験		
【実務経験】 幼稚園教諭としての現場経験、また、主事職（教頭）として、幼稚園における実習生の指導経験、保育心理士や保育アドバイザーの資格を活かし、保育実践を想定した演習や絵本の読み聞かせ等、保育・教育者としての技術の習得、向上を目指した授業を行っている。		
【実務経験を生かした授業科目】 「子どもと言葉」、「保育内容（言葉）」、「教育実習指導」、「保育・教育基礎研究Ⅰ」、「保育・教育基礎研究Ⅱ」「保育・教職実践演習」		

科目名		担当代表教員		学年	期別	形態	必選	単位数
保育内容（音楽表現）		豊辻晴香		2	後期	演習	選択	1
		担当形態	単独	ナンバリング			CE2305	
		担当教員	豊辻晴香					

【キーワード】		【概要】	
1	音楽表現活動	子どもの年齢や発達段階に応じた音楽活動（合奏、音遊び、音楽表現など）の保育のねらいや内容、指導について学ぶ。また、音楽活動以外の場面における音楽の効果的な使い方を知る一助として、物語のイメージに合う歌や音楽を選択し、物語の展開に合わせて発表する。	
2	合奏		
3	音遊び		
4	音楽物語		
5	指導計画		

【到達目標】	
1. 表現のねらい等を理解し、各年齢に応じた音楽表現活動について計画・指導することができる。	
2. 子どもが発信する表現に気づき、受け止め、共感し、共有することができる。	
3. 物語等における、子どもの想像力を高めるための効果的な音楽を組み立てることができる。	

【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】		関連性
【知識・理解・技能】		
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。		
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。		
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。		
【思考・判断・表現】		
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。		○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。		○
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。		○
【関心・意欲・態度】		
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。		
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。		○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。		

【成績評価の方法】				
成績指標	授業態度	発表会	課題・レポート	合計
評価割合（％）	20	60	20	100

【成績評価の基準】						
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0

【評価内容】（ルーブリック）						
評価項目	4	3	2	1		
指導計画力	音楽の特性を活かしつつ子どもの発達段階に沿った内容を計画し、且つ創意工夫がみられる。	音楽の特性を活かしつつ、子どもの発達段階に沿った内容を計画する。	子どもの発達段階を意識した内容を計画する。	提示された課題を計画する。		
実践力（保育）	集団に目を配りつつ、個々の子どもの発信に気づき、受け止め、共感しながら保育を展開できる。	個々の子どもの発信に気づき、受け止め、共感しながら保育を展開できる。	個々の子どもの発信に気づきながら、保育を展開する。	計画した保育を展開する。		
実践力（音楽）	事前に教材を十分に理解し、正しいリズム・音や演奏法を正確に説明できる。	事前に教材を十分に理解し、正しいリズム・音や演奏法をやや説明できる。	事前に教材を理解しようと努め、自分なりの解釈でリズムや演奏法を説明できる。	自分なりの解釈で、リズムや演奏法を披露できる。		
主体性協調性	知識獲得や活動経験に高い関心を持ち、リーダーシップを取りながら主体的に取り組む。	知識獲得や活動経験に高い関心を持ち、他者と協力しながら主体的に取り組む。	知識獲得や活動経験に関心を持って、自分なりに参加している。	自分なりに活動に参加している。		
レポート	自らの学びや経験を挙げ、他者の助言を踏まえて考察し、自己課題や学びの活かし方を詳しく述べている。	自らの学びや経験を述べ、自己省察し、課題や学びの活かし方を記している。	自ら学びや経験、そして感想を述べている。	自らの経験を感想を述べている。		

【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】 取り組み姿勢やレポートの内容等について、口頭またはコメントで伝える。 発表や実践に関しては、終了後にその都度口頭で伝える。		
【教科書】 『ユニバーサルデザインの音楽表現』星山麻木（編著）萌文書林／その他、適時資料配布		
【参考書・参考資料等】 『幼稚園教育要領解説〈平成30年3月〉』文部科学省フレーベル館 『保育所保育指針解説〈平成30年3月〉』厚生労働省フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説〈平成30年4月〉』内閣府他フレーベル館 『2～5歳児のやさしい・楽しい器楽合奏集』安藤真裕子・泉まりこ編曲ナツメ社		
【関連科目】 「子どもと表現」「保育内容全般」「音楽表現Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」		
【受講心得】 日頃より子どもや音楽について関心を持ち、情報収集に努めること。状況に応じて学習順番等が変更する場合がある。		
【備考】 保育士課程必修、幼稚園教諭課程必修		
【学習項目】	担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1 オリエンテーションおよび 情報機器の活用法		＜学習内容＞講義要項（シラバス）の内容、活動メンバーの把握、保育実践スケジュール及び注意事項について確認する。また活動に有益な情報機器について学ぶ。 ＜事前学習＞日々ピアノなどの楽器演奏の練習に励むこと。（0.5時間） ＜事後学習＞授業内容のキーワードなどを整理しておくこと。（0.5時間）
2 子どもの発達と表現領域のねらい・内容		＜学習内容＞各年齢の子どもの発達を把握したうえで、要領・指針の「表現」領域の保育のねらいや内容について理解する。教科書P.30～42 ＜事前学習＞日々ピアノなどの楽器演奏の練習に励むこと。発表の事前準備をしておくこと。（1時間） ＜事後学習＞授業内容のキーワードなどを整理しておくこと。（1時間）
3 器楽合奏活動①：体験		＜学習内容＞保育現場で扱う楽曲を合奏し、発達段階に適した楽器や楽曲編成などについて学ぶ。そして各担当年齢の合奏活動を計画する。 ＜事前学習＞日々ピアノなどの楽器演奏の練習に励むこと。（1時間） ＜事後学習＞授業内容のキーワードなどを整理しておくこと。（1時間）
4 器楽合奏活動②：計画		＜学習内容＞保育現場で扱う楽曲を合奏し、発達段階に適した楽器や楽曲編成などについて学ぶ。そして各担当年齢の合奏活動を計画する。 ＜事前学習＞日々ピアノなどの楽器演奏の練習に励むこと。（1時間） ＜事後学習＞授業内容のキーワードなどを整理しておくこと。（1時間）
5 器楽合奏活動③：指導（未満児）		＜学習内容＞未満児の合奏活動を、保育者として実践または子ども役として経験することで、計画や指導法等について考え意見交換する。 ＜事前学習＞日々ピアノなどの楽器演奏の練習に励むこと。発表の事前準備をしておくこと。（1時間） ＜事後学習＞授業内容のキーワードなどを整理しておくこと。（1時間）
6 器楽合奏活動④：指導（以上児）		＜学習内容＞以上児の合奏活動を、保育者として実践または子ども役として経験することで、計画や指導法等について検討する。 ＜事前学習＞日々ピアノなどの楽器演奏の練習に励むこと。発表の事前準備をしておくこと。（1時間） ＜事後学習＞授業内容のキーワードなどを整理しておくこと。（1時間）

7	音楽合奏活動⑤：指導（以上児）	<学習内容>以上児の合奏活動を、保育者として実践または子ども役として経験することで、計画や指導法等について考え意見交換する。 <事前学習>日々ピアノなどの楽器演奏の練習に励むこと。発表の事前準備をしておくこと。（1時間） <事後学習>授業内容のキーワードなどを整理しておくこと。（1時間）
8	音楽表現活動①：体験	<学習内容>保育現場で扱う音遊びや音楽表現活動を体験することで、音楽を通した表現方法の可能性について学ぶ。そして各担当年齢の音楽表現活動を計画する。 <事前学習>日々ピアノなどの楽器演奏の練習に励むこと。（1時間） <事後学習>授業内容のキーワードなどを整理しておくこと。（1時間）
9	音楽表現活動②：計画	<学習内容>保育現場で扱う音遊びや音楽表現活動を体験することで、音楽を通した表現方法の可能性について学ぶ。そして各担当年齢の音楽表現活動を計画する。 <事前学習>日々ピアノなどの楽器演奏の練習に励むこと。（1時間） <事後学習>授業内容のキーワードなどを整理しておくこと。（1時間）
10	音楽表現活動③：指導（未満児）	<学習内容>未満児の音楽表現活動を、保育者として実践または子ども役として経験することで、計画や指導法等について考え意見交換する。 <事前学習>日々ピアノなどの楽器演奏の練習に励むこと。発表の事前準備をしておくこと。（1時間） <事後学習>授業内容のキーワードなどを整理しておくこと。（1時間）
11	音楽表現活動④：指導（以上児）	<学習内容>以上児の音楽表現活動を、保育者として実践または子ども役として経験することで、計画や指導法等について検討する。 <事前学習>日々ピアノなどの楽器演奏の練習に励むこと。発表の事前準備をしておくこと。（1時間） <事後学習>授業内容のキーワードなどを整理しておくこと。（1時間）
12	音楽表現活動⑤：指導（以上児）	<学習内容>以上児の音楽表現活動を、保育者として実践または子ども役として経験することで、計画や指導法等について考え意見交換する。 <事前学習>日々ピアノなどの楽器演奏の練習に励むこと。発表の事前準備をしておくこと。（1時間） <事後学習>授業内容のキーワードなどを整理しておくこと。（1時間）
13	音楽物語①：計画	<学習内容>選択した絵本または紙芝居に、聞き手の想像を膨らませるような効果音やBGMを自ら考え、披露する。 <事前学習>日々ピアノなどの楽器演奏の練習に励むこと。（1時間） <事後学習>授業内容のキーワードなどを整理しておくこと。（1時間）
14	音楽物語②：計画	<学習内容>選択した絵本または紙芝居に、聞き手の想像を膨らませるような効果音やBGMを自ら考え、披露する。 <事前学習>日々ピアノなどの楽器演奏の練習に励むこと。（1時間） <事後学習>授業内容のキーワードなどを整理しておくこと。（1時間）
15	発表およびまとめ	<学習内容>全授業の内容のまとめを行う。 <事前学習>発表の事前準備をしておくこと。これまでの実践や発表の学びや成果などをまとめておくこと。（0.5時間） <事後学習>学びなどを「事後レポート」にまとめて提出する。（1.0時間）

科目名		担当代表教員		学年	期別	形態	必選	単位数
特別支援教育Ⅱ		是松 いづみ		2	後期	演習	選択	1
		担当形態	単独	ナンバリング			CE2306	
		担当教員	是松 いづみ					

【キーワード】	【概要】
1 特別支援	現在、障害の有無に関わらず、あらゆる人がお互いに人格と個性を尊重し、支え合う共生社会の実現を目指すノーマライゼーションの理念のもと、教育や福祉の領域で様々な取り組みを行っている。授業では障害をはじめ、特別の支援や配慮が必要な子どもたちとの関わり方を学んだ上で、特別の支援や配慮が必要な子どものアセスメントから支援計画の立て方までを理解し、さらに職員間連携や関係機関との連携のあり方についても学ぶ。
2 障害	
3 虐待	
4 保育	
5 発達	

【到達目標】
1. 障害のある子どもやその他特別な配慮を必要とする子どもの保育における計画の作成や、個別支援および保育実践について考えることができる。
2. 障害の有無に関わらず、子ども同士が育ち合う関係を築くための具体的実践方法を理解する。
3. 障害のある子どもの家庭への支援や関係機関との連携・協働について学び、さらに保育に関する現状と課題について理解できる。

【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】	関連性
【知識・理解・技能】	
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。	
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。	
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。	
【思考・判断・表現】	
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。	○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。	○
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。	
【関心・意欲・態度】	
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。	
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。	○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。	○

【成績評価の方法】			
成績指標	レポート（内容及び提出状況）	提出物および受講態度	合計
評価割合（％）	70	30	100

【成績評価の基準】						
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0

【評価内容】（ルーブリック）						
評価項目	4	3	2	1		
知識理解	特別支援教育の教育理念に基づきその内容理解のために本やニュースからも幅広く知識を得ようとする。	特別支援教育の教育理念に基づき、テキストの内容を一定程度理解できている。	支援教育の教育理念に基づき、テキストの理解が十分でない。	テキストの読解ができず、テキストの内容を理解できていない。		
資料の扱い	資料の内容を的確に把握した記述をしており、それを根拠として過不足なく十分に成立させている。	資料の内容を的確に把握した記述をしており、それを根拠として成立させている。	資料の内容を把握した記述をしており、それを根拠として一部成立させている。	資料の内容を把握していない形で扱っている。		
意見の提示	自分の意見を根拠とともに過不足のない形で十分、かつ明確に提示している。	自分の意見を根拠とともに明確に提示している。	自分の意見と根拠との関連が認められるが、一部明確でない形で成立させている。	資料の内容を把握していない形で扱っている。		
課題解決能力	自ら進んで様々な資料を探し、課題解決に向けて探求することができ、他人にもアドバイスできる。	テキスト等を参考にし、自分で課題を解くことができる。	他人のアドバイスがあれば課題を解くことができる。	他人のアドバイスがあっても自発的に課題を解くことができない。		

【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】 レポートは、添削したりコメントを添えたりして返却する。		
【教科書】 『特別支援教育・保育概論』小野明美他編著 萌文書林		
【参考書・参考資料等】 『特別支援学校学習指導要領・解説書』文部科学省 『特別支援教育』 石橋裕子他 ミネルヴァ書房 『特別支援教育からインクルーシブ教育への展望』 渡邊健治編著 クリエイツかもがわ 『インクルーシブ教育への提言』清水貞夫編著 クリエイツかもがわ 『インクルーシブ保育っていいね』小山望他編著 福村出版		
【関連科目】 「特別支援教育Ⅰ」「子ども家庭福祉」「社会的養護Ⅰ」「社会的養護Ⅱ」「社会福祉」「相談支援」		
【受講心得】 ・子どもを「共感的に理解する」とはどういう事なのかを、事例に即して考えることができるようにする。 ・他の学生や講師の話を聞き、自分の考えや世界を広げたり深めたりできるようにする。 ・学んだ事をどのように生かすかという視点をもつことができるようにする。		
【備考】 保育士課程必修		
【学習項目】	担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1 オリエンテーション 本科目の位置づけ 学習の概要		<学習内容>15回の講義の概要とともに特別支援教育で学ぶことを知る。特別支援教育の歴史を学び先駆的な取り組みをした人物について理解する。 <事前学習>事前にテキスト全体に目を通し、シラバス（講義要項）を知っておく。（30分） <事後学習>特別支援教育の基本について授業プリントに書き込んで理解を深める。（1時間）
2 特別支援教育の制度や仕組み ・特別支援教育 ・特別支援教育の学びの場と手続き ・合理的配慮		<学習内容>インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育に関する制度の理念や仕組みを学ぶ。 <事前学習>テキストP10～16を読んで、内容を掴む（30分） <事後学習>「合理的配慮」についてそれぞれの場についてまとめる。（1時間）
3 障害児保育の基本 ・障害児保育とは ・障害児保育の展開 ・周囲の子どもとの関わり ・障害を理解する際の注意点 ・言葉の整理		<学習内容>インクルーシブ教育の理念と教育現場での様子を知って現場の課題を考える。 <事前学習>テキストP17～31を読んで、内容を掴む（30分） <事後学習>ノーマライゼーション、インクルージョンなど特別支援教育で使われる言葉を授業プリントに整理する。（1時間）
4 その他の特別な配慮を要する子どもの理解と支援（1） ・情緒障害 ・場面緘黙 ・感覚過敏		<学習内容>さまざまな配慮を要する子どもの特性を知り、支援について学ぶ。（情緒障害 場面緘黙 感覚過敏） <事前学習>テキストP136～140を読んで、内容を掴む（30分） <事後学習>情緒障害、場面緘黙、感覚過敏について学んだことを授業プリントにまとめる。（1時間）
5 その他の特別な配慮を要する子どもの理解と支援（2） ・虐待 ・母国語が外国語の場合 ・貧困		<学習内容>さまざまな配慮を要する子どもの特性を知り、支援について学ぶ。（虐待 母国語が外国語の場合 貧困） <事前学習>テキストP141～151を読んで、内容を掴む（30分） <事後学習>虐待・母国語が外国語の場合・貧困について学んだことを授業プリントにまとめる。組織的な対応の必要性について授業で学んだことを記述する。（1時間）
6 幼稚園及び保育所等における教育・保育の実際 ・全体的な計画 ・支援計画 ・指導計画		<学習内容>全体的な計画、支援計画、指導計画の意義と活用について学び、実際に書いて記録の方法を理解する。 <事前学習>テキストP154～179を読んで、内容を掴む（30分） <事後学習>自分が作った個別の支援計画と他の学生が作った支援計画を比べて、良さや課題を話し合う。支援シートの例を熟読する。（1時間）

7	保育現場での支援目標の立て方と実際の支援方法		<学習内容>保育現場での支援目標の立て方や実際の支援の方法を演習を元に理解する。 <事前学習>プリントの演習を読んで内容を掴む（30分） <事後学習>支援環境や教材がなくても遊びや生活に必要なスキルを身につけることの大切さをプリントにまとめる。（1時間）
8	「通級による指導」及び「自立活動」の教育課程上の位置づけと内容 ・通級による指導 ・自立活動		<学習内容>教育現場で行われている「通級による指導」「自立活動」についてその意義と活動について学び、課題を考える。 <事前学習>テキストP209～212を読んで内容を掴む（30分） <事後学習>自立活動の具体的な内容について学んだことを元に記述する。（1時間）
9	個々の発達を促す生活や遊びの環境 ・生活環境の大切さ ・遊びの大切さ ・障害に応じた生活環境の設定と配慮		<学習内容>障害に応じた生活環境の設定と配慮や支援について理解する。（ダウン症児 友だちとのかかわりが難しい子ども 肢体不自由児 聴覚障害児） <事前学習>特別支援教育Ⅰのテキストを復習しておく（30分） <事後学習>それぞれの支援についてまとめる。（1時間）
10	職員間の連携・協働 ・園全体の取り組みについて ・子どもへの個別的な関わりについて ・組織としての園の支援体制について		<学習内容>保育現場での職員間の連携や協働について具体的内容を学ぶ。 <事前学習>テキストP195～201を読んで内容を掴む（30分） <事後学習>演習のA先生はどのように対応したらよかったかについて学んだ事を元にまとめる。（1時間）
11	特別支援教育コーディネーター、関係機関、家庭と連携しながらの支援体制の構築 ・特別支援教育コーディネーターの役割 ・校内委員会の1年間 ・関係機関との連携		<学習内容>保育現場で特別支援教育を推進するコーディネーターの役割を知り、演習で具体的に考える。ケース会議を経験して進め方を理解する。 <事前学習>テキストP219～228を読んで内容を掴む（30分） <事後学習>ケースカンファレンスを行った感想をまとめる。（1時間）
12	家庭及び自治体・関係機関との連携（1） ・保護者や家族に対する理解と支援 ・保護者への支援における問題と課題		<学習内容>障害のある子どもの保護者や家族への理解を深め、その支援について考える。 <事前学習>テキストP230～233を読んで内容を掴む（30分） <事後学習>保護者の相談や悩みにどのように答えられるか自分なりの考えをまとめる。（1時間）
13	家庭及び自治体・関係機関との連携（2） ・保護者間の交流や支え合いの意義 ・親の会への支援		<学習内容>障害のある子どもの保護者や家族の支援に何が必要かDVDを元に考え、学生同士で話し合う。 <事前学習>テキストP234～242を読んで内容を掴む（30分） <事後学習>保護者の相談や悩みにどのように答えられるか自分なりの考えをまとめる。（1時間）
14	発達支援の技法 ・ソーシャルスキル トレーニング ・ティーチャーズ トレーニング		<学習内容>発達支援の技法の種類や内容を知り、2つの技法について実際に経験して理解を深める。 <事前学習>授業プリントを読んで内容を掴む（30分） <事後学習>授業で学んだこと、気づきなどをプリントにまとめ、周りの人と話してみる。（1時間）
15	障害その他の特別な配慮を要するこどもの保育に関わる現状と課題 ・福祉・教育における現状と課題 ・支援の場の広がりをつながり		<学習内容>関係機関や地域、また小学校などとの連携について演習を元に考える。 <事前学習>テキストP243～264を読んで内容を掴む（30分） <事後学習>この講義で学んだことを振り返り、「特別支援教育」の理念について述べられるようにする。（1時間）
16	定期試験		

科目名		担当代表教員		学年	期別	形態	必選	単位数
社会的養護Ⅱ		谷川 知士		2	後期	演習	選択	1
		担当形態	単独		ナンバリング		CE2307	
		担当教員	谷川知士					

【キーワード】		【概要】	
1	社会的養護	社会的養護において、子どもの最善の利益のためにどのような支援が行われているのかを学びます。 事例やグループワークをとおして様々な考え方にふれ、多角的に考える力や支援する力を身につけていきます。	
2	虐待		
3	里親		
4	施設		
5	子どもの権利		

【到達目標】	
1. 施設養護および家庭養護の実際について理解できる。	
2. 社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について理解することができる。	
3. 社会的養護の下で暮らす子どもたちへの理解を深めることができる。	

【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】		関連性
【知識・理解・技能】		
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。		○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。		
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。		
【思考・判断・表現】		
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。		○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。		
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。		
【関心・意欲・態度】		
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。		○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。		○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。		○

【成績評価の方法】			
成績指標	提出物・試験	取り組みの姿勢・受講態度	合計
評価割合（％）	70	30	100

【成績評価の基準】						
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0

【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】	
毎回まとめた用紙を提出してもらい、次回に返却をすることで、授業の理解度の確認とフィードバックを行う	
【教科書】 社会的養護Ⅰで使用した同じ教科書の後半を使用する。 社会的養護入門 芝野松次郎・新川泰弘・山川宏和 編著 ミネルヴァ書房、2021.10.30	
【参考書・参考資料等】 講義の中で紹介します。	

【関連科目】	
「社会的養護Ⅰ」「子ども家庭福祉」「社会福祉」「保育実習」	
【受講心得】 事前に教科書を読み、全員が安心して講義を受けられるよう、それぞれが意識して受講すること。	

【備考】 保育士課程必修			
【学習項目】		担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1	オリエンテーション 第10章 社会的養護における子ども理解 （日常生活支援）		<学習内容>授業の概要他、授業に関するオリエンテーションを行う。子どもの権利条約から子どもの最善の利益を考えてみよう。 <事前学習>教科書のp3～p21まで目をとおしておく。（30分） <事後学習>授業で学んだことを、指定の用紙にまとめ、気づきなどを周りの人と話してみる。（30分）
2	第10章 社会的養護における子どもの支援の実際（治療的支援と自律支援）		<学習内容>社会的養護の下で暮らす子どもたちのアセスメントについて。自立支援計画の立て方、見方を学ぶ。 <事前学習>教科書のp22～p31まで目をとおしておく。（30分） <事後学習>授業で学んだことを、指定の用紙にまとめ、気づきなどを周りの人と話してみる。（30分）
3	第11章 社会的養護における生活特性と支援の実際（児童養護施設の学習指導）		<学習内容>施設養護の体系について理解するとともに、施設養護で暮らす子どもの実態を理解する。 <事前学習>教科書のp32～p37まで目をとおしておく。また社会的養護Ⅰで学んだ施設養護について振り返っておく。（30分） <事後学習>授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。（30分）
4	第11章 社会的養護における生活特性と支援の実際（グループホームの子どもたち）		<学習内容>各施設の役割や特徴について学ぶ。 <事前学習>教科書のp38～p41まで目をとおしておく。（30分） <事後学習>授業で学んだことを、指定の用紙にまとめ、気づきなどを周りの人と話してみる。（30分）
5	第11章 社会的養護における生活特性と支援の実際（養育里親）		<学習内容>各施設の役割や特徴について学ぶ。 <事前学習>教科書のp42～p47まで目をとおしておく。（30分） <事後学習>授業で学んだことを、指定の用紙にまとめ、気づきなどを周りの人と話してみる。（30分）
6	第12章 社会的養護における支援の計画		<学習内容>集団で生活することの意義やルールについて学ぶ。 <事前学習>教科書のp48～p53まで目をとおしておく。また、実習先での経験をまとめる。（30分） <事後学習>授業で学んだことを、指定の用紙にまとめ、気づきなどを周りの人と話してみる。（30分）
7	第12章 社会的養護における記録及び自己評価		<学習内容>社会的養護を必要とする子どもの心理的ケアの必要性を理解する。 <事前学習>教科書のp54～p59まで目をとおしておく。また、保育士の役割について再度確認しておく。（30分） <事後学習>授業で学んだことを、指定の用紙にまとめ、気づきなどを周りの人と話してみる。（30分）
8	第13章 母子生活支援施設における母子への支援		<学習内容>里親制度やファミリーホームの目的や役割について学ぶ。 <事前学習>教科書のp62～p66まで目をとおしておく。（30分） <事後学習>授業で学んだことを、指定の用紙にまとめ、気づきなどを周りの人と話してみる。（30分）
9	第13章 母子生活支援施設におけるDV被害者・被虐待児への支援		<学習内容>社会的養護の下で暮らす子どもにとって施設での行事や日常生活はどのような意味をもつのかを考える。 <事前学習>教科書のp68～p73まで目をとおしておく。また、社会的養護Ⅰを振り返っておく。（30分） <事後学習>授業で学んだことを、指定の用紙にまとめ、気づきなどを周りの人と話してみる。（30分）

1 0	第14章 社会的養護にかかわる専門技術	<学習内容>特徴や特性のある子どもたちに、どのような支援が必要なのかを理解する。 <事前学習>教科書のp76～p95まで目をとおしておく。(30分) <事後学習>授業で学んだことを、指定の用紙にまとめ、気づきなどを周りの人と話してみる。(30分)
1 1	第14章 社会的養護にかかわる相談援助技術	<学習内容>施設等を巣立つ子どもたちの実情について考え、自立とはどのようなものなのか、どのような援助が必要なのかを学ぶ。 <事前学習>教科書のp96～p101まで目をとおしておく。あなたにとっての自立とは何か考えておく。(30分) <事後学習>授業で学んだことを、指定の用紙にまとめ、気づきなどを周りの人と話してみる。(30分)
1 2	第15章 社会的養護の課題	<学習内容>親子の再統合とはなにか。またそのために保育士はなにができるのかを考え理解する。 <事前学習>教科書のp104～p113まで目をとおしておく。(30分) <事後学習>授業で学んだことを、指定の用紙にまとめ、気づきなどを周りの人と話してみる。(30分)
1 3	第15章 社会的養護の展望	<学習内容>フォスターケア・ドリフトが起こる背景やアフターケアについて学ぶ。 <事前学習>教科書のp114～p126まで目をとおしておく。(30分) <事後学習>授業で学んだことを、指定の用紙にまとめ、気づきなどを周りの人と話してみる。(30分)
1 4	第15章 社会的養護と子どもの権利擁護	<学習内容>チームワークのあり方について学ぶ。 <事前学習>教科書のp128～p137まで目をとおしておく。(30分) <事後学習>授業で学んだことを、指定の用紙にまとめ、気づきなどを周りの人と話してみる。(30分)
1 5	まとめ 社会的養護の関係者、経験者から学ぶ	<学習内容>社会的養護施設の職員として資質向上を図るにはどうすれば良いかを学ぶ。 <事前学習>教科書のp140～p145まで目をとおしておく。(30分) <事後学習>授業で学んだことを、指定の用紙にまとめ、気づきなどを周りの人と話してみる。(30分)

科目名		担当代表教員		学年	期別	形態	必選	単位数
保育・教職実践演習		飯塚 恭一郎		2	後期	演習	選択	2
		担当形態	複数		ナンバリング		CE2309	
		担当教員	飯塚恭一郎（実務家）、青沼典子（実務家）、豊辻晴香、高口知浩、川崎徳子、岩見廣和、松尾俊治					

【キーワード】		【概要】			
1	保育エピソード	保育・幼児教育において、確かな実践力と豊かな人間力を備えた人材が求められる。本授業では、学びの軌跡の集大成となるように位置づけられており、質の高い保育実践力の習得のために、教員・現場の保育者・学生の三者による学びの再確認を行い、自己課題を自覚、不足される知識・技能を補うこととする。また「履修カルテ」を活用し、自身の主観的評価と、客観的評価の擦り合わせを行う。具体的授業内容については、子どもの育ちの見通しを持った保育の構想力（指導案作成）、子どもの発達に応じた環境（物的環境、人的環境）を生かす技術（ピアノ・造形・劇など）、保護者や子どもに寄り添いながら援助していく能力等の確認を行う。			
2	ロールプレイ				
3	ディスカッション				
4	保育観				
5	実践力				
【到達目標】					
1. これまでの保育・教育実践を振り返り学びを深く考察することで、保育者の使命感や責任感を改めて自覚する。また、得られた知見をフィードバックして次の保育・教育の質の向上を図ることができる。					
2. 多様な視点から子どもと保育について考察し、保育を再構成することができる。また、保育にかかわる人との連携や協同的な見地からも保育を捉えて計画することができる。					
3. 保育・教育の課題を見出すや解決していく力、効果的保育を組み立てる力、実践における具体的知識技術などを多様な視点から捉え、その実践力を高めていくことができる。					
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】			関連性		
【知識・理解・技能】					
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。					
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。					
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。					
【思考・判断・表現】					
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。					
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。					
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。					
【関心・意欲・態度】					
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。					
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。					
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。					
【成績評価の方法】					
成績指標	受講態度		課題・レポート提出	実践力	合計
評価割合（％）	25%		35%	40%	100
【成績評価の基準】					
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下
評語	S	A	B	C	E
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0
【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】					
提出されたレポート返却に伴い行う。検定は個別であるため随時回答する。					
【教科書】					
プリント					
【参考書・参考資料等】					
講義の中で紹介する。					
【関連科目】					
「実習関連科目」「保育内容指導法に関する科目」					

【受講心得】			
主体的に取り組むことを求める。本講義の目的をよく理解して行動すること。			
【備考】			
幼稚園課程必修・保育士課程必修			
【学習項目】		担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1	オリエンテーション 授業概要	飯塚	【学習内容】 本授業の概要説明を行う 【事前学習】 シラバスを読み授業の流れを把握しておく（30分） 【事後学習】 今までの実習を振り返っておく（1時間）
2	授業展開説明	飯塚	【学習内容】 本授業の概要説明を行う 【事前学習】 シラバスを読み授業の流れを把握しておく（30分） 【事後学習】 今までの実習を振り返っておく（1時間）
3 ・ 4	保護者対応について	飯塚 高口	【学習内容】 子どもへのまなざしと保護者への伝達について学ぶ 【事前学習】 連絡帳の書き方について調べる（1時間） 【事後学習】 学習内容をまとめる（30分）
5 ・ 6	保護者対応について	飯塚 高口	【学習内容】 連絡帳記述 【事前学習】 連絡を記述を確認（30分） 【事後学習】 他者の記述から受け方についてまとめる（30分）
7	指導案とは	飯塚	【学習内容】 指導案の説明 【事前学習】 シラバスを読み授業の流れを把握しておく（30分） 【事後学習】 今までの実習を振り返りを行う（1時間）
8 ・ 9	指導案の子どもの姿について	青沼	【学習内容】 グループに分かれ子どもの姿のイメージを共有する 【事前学習】 今までの実習での振り返りを行う（30分） 【事後学習】 話し合いの内容を確認しておく（30分）
10	指導案のねらいの設定について	高口	【学習内容】 グループに分かれ子どもの発達を見通したねらいを立てる 【事前学習】 今までの実習での振り返りを行う（30分） 【事後学習】 話し合いの内容を確認しておく（30分）
11 ・ 12	指導案の主活動と計画を立てる	豊辻	【学習内容】 グループに分かれねらいに即した活動を立てる 【事前学習】 今までの実習での振り返りを行う（30分） 【事後学習】 話し合いの内容を確認しておく（30分）

13 ・ 14	指導案の添削	青沼 豊辻	【学習内容】 他グループ指導案を添削し自身の課題に気づく 【事前学習】 作成した指導案を見直す (30分) 【事後学習】 自身と他者の指導案を比較 (30分)
15 ・ 16	はがき作成	川崎	【学習内容】 はがきを作成することにより造形技能を高める 【事前学習】 レイアウトをイメージする (30分) 【事後学習】 作成する際に使用した技能をまとめる (30分)
17 ・ 18	行事のお知らせを作成	飯塚	【学習内容】 お知らせをパソコンで作成する 【事前学習】 年間行事を確認する (30分) 【事後学習】 作成する際に使用した技能をまとめる (30分)
19	保育技能検定①	岩見 松尾	【学習内容】 保育技能検定 (手遊び) 【事前学習】 手遊びの練習 (1時間) 【事後学習】 検定時の評価を振り返る (30分)
20	保育技能検定②	豊辻	【学習内容】 保育技能検定 (音楽) 【事前学習】 ピアノの練習 (1時間) 【事後学習】 検定時の評価を振り返る (30分)
21	保育技能検定③	青沼 岩見 松尾	【学習内容】 保育技能検定 (絵本読み) 【事前学習】 絵本読みの練習 (1時間) 【事後学習】 検定時の評価を振り返る (30分)
22	保育技能検定④	岩見 松尾	【学習内容】 保育技能検定 (生活) 【事前学習】 子どもの救急対応を見直す (1時間) 【事後学習】 検定時の評価を振り返る (30分)
23	表現活動について	飯塚	【学習内容】 子どもに向けた表現活動について知る。 【事前学習】 子どもの表現活動について調べる (1時間) 【事後学習】 活動のイメージを振り返る (30分)
24	保育技能練習	飯塚 高口	【学習内容】 保育技能の準備・練習 (表現活動) 【事前学習】 表現活動のイメージを行う (1時間) 【事後学習】 グループ活動のまとめを行う (30分)
25 ・ 26	保育技能練習	高口 川崎	【学習内容】 保育技能の準備・練習 (表現活動) 【事前学習】 表現活動のイメージを行う (1時間) 【事後学習】 グループ活動のまとめを行う (30分)

27・28	保育技能検定⑤	全教員	【学習内容】 保育技能検定（表現活動） 【事前学習】 発表の練習（1時間） 【事後学習】 検定時の評価を振り返る（30分）
29	保育技能検定演習の振り返り	飯塚青沼	【学習内容】 今後保育者として子どもの前に立つ使命感や責任感について再確認するとともに自己課題を見出す 【事前学習】 技能検定を振り返る（30分） 【事後学習】 自身の課題をまとめる（30分）
30	まとめ	飯塚青沼	【学習内容】 保育者としての質の向上と学ぶ姿勢について履修カルテとともに再確認する 【事前学習】 全授業の振り返りを行う（30分） 【事後学習】 自身の課題をまとめる（1時間）

【実務家教員】

【実務経験】

フリガナ	アオヌマ ノリコ	こども学科 教授
氏 名	青沼 典子	
実 務 経 験		

【実務経験】

幼稚園教諭としての現場経験、また、主事職（教頭）として、幼稚園における実習生の指導経験、保育心理士や保育アドバイザーの資格を活かし、保育実践を想定した演習や絵本の読み聞かせ等、保育・教育者としての技術の習得、向上を目指した授業を行っている。

【実務経験を生かした授業科目】

「子どもと言葉」、「保育内容（言葉）」、「教育実習指導」、「保育・教育基礎研究Ⅰ」
「保育・教育基礎研究Ⅱ」、「保育・教職実践演習」

フリガナ	イヅカ キョウイチロウ	こども学科 准教授
氏 名	飯塚 恭一郎	
実 務 経 験		
【実務経験】		
幼稚園における教諭や保育主任などの経験を活かし、それぞれの事例を基に、保育者の役割・仕事内容や子どもを取り巻く人間関係に関する授業や保育・教育課程に関する授業、実習指導等を行っている。		
【実務経験を生かした授業科目】		
「保育原理」、「子どもと人間関係」、「保育内容（人間関係）」、「保育・教育課程論」、「教育実習指導」、「保育・教育基礎研究Ⅰ」、「保育・教育基礎研究Ⅱ」、「保育・教職実践演習」		

科目名		担当代表教員		学年	期別	形態	必選	単位数
教育方法論		今村 裕		1	後期	講義	選択	2
		担当形態	単独	ナンバリング			CE2310	
		担当教員	今村 裕					

【キーワード】	【概要】 The Way to Do is to Be. 「何を」「どう」よりも「誰が」教えるかに重点を。					
1 教育方法	「学校」とは何か、「教育方法」とは何を考えるのかについて具体的な現場の姿を知る。またこれからの現場教師に求められる知識・資料収集・具体的な指導法についての基本を学習する。					
2 教育原理						
3 教育哲学						
4 幼児教育						
5 幼小連携教育						
【到達目標】						
1. 教育の目的を達成するための方法や技術を、具体的な実践の場面を想定し習得することができる。						
2. 枠組みにとらわれない自由な発想を培う教育方法を理解し、教育実践に結び付けることができる。						
3. 常に教育界の新しい情報を掴み、それを参考にしながらオリジナルで柔軟な教育方法を編み出すことができる。						
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】		関連性				
【知識・理解・技能】						
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。						
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。						
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。						
【思考・判断・表現】						
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。		○				
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。						
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。						
【関心・意欲・態度】						
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。		○				
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。						
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。		○				
【成績評価の方法】						
成績指標	定期試験	感想意見レポート	合計			
評価割合（％）	60	40	100			
【成績評価の基準】						
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0
【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】						
毎時間感想意見レポートを提出する。次週の初めにレポートの一部をフィードバック、その反省点に立ち本時のスタートとする。						
【教科書】						
必要に応じてプリントを配布する。						
【参考書・参考資料等】						
必要に応じて、授業中に紹介する。						
【関連科目】						
教育原理・保育原理・子どもの心理学						

【受講心得】 事前学習のために、積極的に図書館を利用する。 真面目で積極的な受講態度で臨むこと。			
【備考】 教育（特に幼児教育）に関する時事問題を随時挿入していくので、日頃から関心をもって生活すること。			
【学習項目】		担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1	オリエンテーション・教育方法の基本的概念		<学習内容>授業中の約束事を連絡した後、15回の授業の概要を説明および事前事後の学習について説明する。 <事前学習>15回の講義要項（シラバス）に目を通し、全体の流れを掴むとともに、質問事項を整理しておく。 （1時間） <事後学習>感想・意見レポートを書くことによって定着を図る。（1時間）
2	教育の歴史 ～教育方法と関連づけて～		<学習内容>古代ギリシアの教育・近代市民社会などから公教育への発展について学ぶ。 <事前学習>本時の学習内容の確認をしておくこと。（0.5時間） <事後学習>感想・意見レポートを書くことによって定着を図る。（1時間）
3	西洋の教育思想の潮流（1）		<学習内容>西洋教育思想の潮流について概略を学ぶ。 <事前学習>本時の学習内容の確認をしておくこと。（0.5時間） <事後学習>感想・意見レポートを書くことによって定着を図る。（1時間）
4	西洋の教育思想の潮流（2）		<学習内容>ソクラテス・コメニウス・フレーベル・ブルーナー・ペスタロッチ・モンテッソーリの教育にふれ、教育方法史の概要を掴む。 <事前学習>本時の学習内容の確認をしておくこと。（0.5時間） <事後学習>感想・意見レポートを書くことによって定着を図る。（1時間）
5	日本の教育思想の潮流（1）		<学習内容>日本の教育思想の潮流について概略を学ぶ。 <事前学習>本時の学習内容の確認をしておくこと。（0.5時間） <事後学習>感想・意見レポートを書くことによって定着を図る。（1時間）
6	日本の教育思想の潮流（2）		<学習内容>江戸時代以前から現代まで、代表的な教育者について学ぶ。 <事前学習>本時の学習内容の確認をしておくこと。（0.5時間） <事後学習>感想・意見レポートを書くことによって定着を図る。（1時間）

7	道徳教育の視点に立った教育方法		<学習内容>道徳教育の意義と、幼児期の五領域の指導場面を関連づけて学ぶ。 <事前学習>本時の学習内容の確認をしておくこと。(0.5時間) <事後学習>感想・意見レポートを書くことによって定着を図る。(1時間)
8	生徒指導の立場に立った教育方法		<学習内容>小学校における生徒指導の立場に立った、幼児期における五領域の指導場面との関連性を学ぶ。 <事前学習>小学校学習指導要領『特別活動編』を読み、その学習内容について予め把握しておく。(1時間) <事後学習>感想・意見レポートを書くことによって定着を図る。(1時間)
9	特別支援教育の視点に立つ		<学習内容>特別支援教育の原点についてその歴史を踏まえ学ぶ。 <事前学習>本時の学習内容を確認しておくこと(0.5時間) <事後学習>感想・意見レポートを書くことで定着を図る。(1時間)
10	障害がある子どもへの教育 ～発達障害に視点にして～		<学習内容>特別支援教育の視点から障害がある幼児とその保護者への関わりを事例を交えて学ぶ。 <事前学習>本時の学習内容を確認しておく。(0.5時間) <事後学習>感想・意見レポートを書くことで定着を図る(1時間)
11	虐待経験の影響と求められる支援		<学習内容>虐待についてその概要を学び、具体的事例を基にその理解を深める。 <事前学習>本時の学習内容を確認しておくこと。(0.5時間) <事後学習>感想・意見レポートを書くことによって定着を図る。(1時間)
12	こども理解について		<学習内容>「こども理解とはなにか」「子ども理解はどう役立つのか」について、具体的場面を想起しながら、具体的に学ぶ。 <事前学習>本時の学習内容の確認をしておくこと。(0.5時間) <事後学習>感想・意見レポートを書くことによって定着を図る。(1時間)
13	問題行動について		<学習内容>幼児期の子どもの問題行動について、その実態と捉え方について学ぶ。 <事前学習>本時の学習内容の確認をしておくこと。(0.5時間) <事後学習>感想・意見レポートを書くことによって定着を図る。(1時間)

1 4	いじめ・不登校について		<学習内容>いじめ・不登校について事例を交えながら具体的に学ぶ。 <事前学習>本時の学習内容の確認をしておくこと。(0.5時間) <事後学習>感想・意見レポートを書くことによって定着を図る。(1時間)
1 5	家庭における生活指導について		<学習内容>家庭における生活指導について，具体的事例を交えながら学ぶ。 <事前学習>本時の学習内容の確認をしておくこと。(0.5時間) <事後学習>感想・意見レポートを書くことによって定着を図る。(1時間)
1 6	定期試験		15回の授業を終え、授業理解の全体を確認する。

科目名		担当代表教員		学年	期別	形態	必選	単位数
医療保育		楠野 雅子		2	後期	講義	選択	2
		担当形態	単独		ナンバリング		CE2311	
		担当教員	楠野 雅子					

【キーワード】		【概要】	
1	生命の保持	病児・病後児保育、病気の子どもの医療面のニーズや倫理的配慮の必要性、疾病により日常生活に制限のある子どもの対応について、成長発達過程にある子どもの援助、医療チームの一員として業務の展開方法、病気の子どもと家族が抱えがちな心理社会的問題、医療保育のための環境を整える方法（感染症予防と主な感染症の対応） 医療保育の場における安全管理	
2	安全な生活環境		
3	心身の発達		
4	遊びと学習援助		
5	家族への援助		

【到達目標】	
1. 医療保育とは、その意義と役割を理解できる	
2. 医療保育のための感染症予防、主な症状に対する対応の仕方が理解できる	
3. 医療保育の実践の基本課題と倫理的立場を理解できる	

【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】		関連性
【知識・理解・技能】		
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。		○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。		○
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。		○
【思考・判断・表現】		
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。		○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。		○
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。		○
【関心・意欲・態度】		
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。		○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。		○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。		○

【成績評価の方法】			
成績指標	定期試験	提出物および受講態度	合計
評価割合（％）	80	20	100

【成績評価の基準】						
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0

【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】	
課題レポートについて、返却時、コメントの内容を確認し、見直しておくこと。	

【教科書】	
『医療保育実践マニュアル』 診断と治療社 適宜資料配布	

【参考書・参考資料等】	
『実践 保育学』 帆足英一監修 日本小児医事出版社	
『医療保育』 診断と治療社 『病気の子供の心理社会的入門』 谷川弘治著	
『医療保育テキスト』 日本医療保育学会 『病児保育』 一般財団法人日本病児保育協会 英治出版	
『発達がわかれば子どもが見える』 田中真介きょうせい	

【関連科目】	
「子どもの保健」「子どもの健康と安全」	

【受講心得】			
病児・病後児保育について、知識・技術の習得に努めること			
【備考】			
保育士資格選択必修科目			
【学習項目】		担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1	医療保育について		<学習内容>医療保育とは、病児・障害児保育の保健管理、他職種との連携、地域・保護者との連携 <事前学習>講義要項(0.5時間) <事後学習>講義内容の復習（1時間）
2	保育の役割		<学習内容>医療保育における保育士の役割について。安全に過ごせる環境と、情緒が安定し、入院生活に適応できるように、他職種との連携。遊びや学びの援助。 <事前学習>資料に目を通しておく（0.5時間） <事後学習>講義内容の復習（1時間）
3	保育活動		<学習内容>保育活動をする上での留意事項（情報収集、準備、保育活動の実際（集団・個別保育、保育行事）、報告） <事前学習>資料に目を通しておく（0.5時間） <事後学習>講義内容の復習（1時間）
4	子どもの生理機能		<学習内容>子どもの生理機能の発達、運動機能の発達、感覚機能の発達、保育における関わり方と配慮、観察の視点など <事前学習>資料を読んでおく（1時間） <事後学習>講義内容の復習（1時間）
5	生活援助と家族支援①		<学習内容>入院生活で、病所や治療により、様々な制限を要する子どもの、食事、排泄、清潔、睡眠などの日常生活援助 <事前学習>資料に目を通しておく（1時間） <事後学習>講義内容の復習（1時間）
6	生活援助と家族支援②		<学習内容>入院生活で、病所や治療により、様々な制限を要する子どもの、食事、排泄、清潔、睡眠などの日常生活援助 <事前学習>資料に目を通しておく（1時間） <事後学習>講義内容の復習（1時間）
7	保育活動中に起こる事故と安全対策		<学習内容>保育中に起こりうる事故と安全対策。インシデント、アクシデント発生時の保育士の対応と報告 <事前学習>資料に目を通しておく（1時間） <事後学習>講義内容の復習（1時間）
8	保育記録		<学習内容>医療現場における保育記録、チーム医療を実践する中で他職種と内容の共有しやすい記録 <事前学習>資料に目を通しておく（1時間） <事後学習>講義内容の復習（1時間）

9	感染症予防と対策		<学習内容>感染症について、感染症予防、感染症対策 <事前学習>資料に目を通しておく（1時間） <事後学習>講義内容の復習（1時間）
10	症例別にみた保育支援①		<学習内容>各症例に沿って保育支援における、必要な情報をアセスメントし、保育計画設定、留意点、配慮点 <事前学習>資料に目を通しておく（1時間） <事後学習>講義内容の復習（1時間）
11	症例別にみた保育支援②		<学習内容>保育支援の際に、患者・家族（兄弟児）、他職種、診察記録などの情報をアセスメントし、保育目標・ねらい・患者目標・保育計画を設定。 入院各期（急性期・安定期・退院前）の患者・家族の様子・アセスメント・保育計画・留意点 <事前学習>資料に目を通しておく（1時間） <事後学習>講義内容の復習（1時間）
12	症状別にみた保育支援③		<学習内容>保育支援の際に、患者・家族（兄弟児）、他職種、診察記録などの情報をアセスメントし、保育目標・ねらい・患者目標・保育計画を設定。 入院各期（急性期・安定期・退院前）の患者・家族の様子・アセスメント・保育計画・留意点 <事前学習>資料に目を通しておく（1時間） <事後学習>講義内容の復習（1時間）
13	症例別にみた保育支援④		<学習内容>保育支援の際に、患者・家族（兄弟児）、他職種、診察記録などの情報をアセスメントし、保育目標・ねらい・患者目標・保育計画を設定。 入院各期（急性期・安定期・退院前）の患者・家族の様子・アセスメント・保育計画・留意点 <事前学習>資料に目を通しておく（1時間） <事後学習>講義内容の復習（1時間）
14	他職種との連携について		<学習内容>医療現場での他職種について、他部署との連携、チーム医療における保育士の在り方 <事前学習>資料に目を通しておく（1時間） <事後学習>講義内容の復習（1時間）
15	まとめ		<学習内容>これまでのまとめ 医療保育について、目標とねらい、保育支援を実践していく過程、生活援助と家族支援（親・きょうだい）、事故と安全対策、他職種との連携 <事前学習>資料を見直す（1時間） <事後学習>講義内容まとめ（2時間）
16	試験		

科目名		担当代表教員		学年	期別	形態	必選	単位数
保育・教育基礎研究Ⅳ		谷川 裕子		2	後期	演習 実技	選択	1
		担当形態	複数		ナンバリング		CE2305	
		担当教員	谷川裕子、谷川知士、豊辻晴香、 高口知浩、石橋孝明、今村裕					

【キーワード】		【概要】	
1	研究	保育者には、必要な知識及び技能の習得にとどまらず、自身や保育・教育における問題解決に取り組むことも求められる。しかし社会に存在する問題の解は一つとは限らない。解に向けては、問題を明らかにし、解決すべき課題を見だし、解決へ向けての多様なアイデアが必要である。本授業ではアイデアを見いだすための論理的思考力、チーム力を身につけ、さらに表現力を養う。本授業において身につける能力は、保育者として社会人として必須の能力である。その為の内容は、問題を取り上げ、解決法を文章まとめ、発表をする。	
2	課題		
3	研究方法		
4	発表		
5	専門性		

【到達目標】	
1. 保育・教育に関する学習や実習経験より子どもを取り巻く環境への課題について問題解決への思考力を持つことができる。	
2. 保育問題解決に向けて、読む・書く・話す・聞く事の高め、社会で必要とするチーム活動能力を高める。	
3. 他者へ向けて口頭、身体、文章、画像等により表現することができる。	

【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】		関連性
【知識・理解・技能】		
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。		
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。		
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。		
【思考・判断・表現】		
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。		○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。		
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。		
【関心・意欲・態度】		
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。		○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。		○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。		

【成績評価の方法】各表現活動における				
成績指標	取り組み姿勢等	各活動におけるレポート・提出物	研究発表	合計
評価割合（％）	30	50	20	100

【成績評価の基準】						
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0

【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】	
レポートや発表についてコメントを返却するので確認して返答すること。	

【教科書】	
特に指定しない。	

【参考書・参考資料等】	
講義の中で紹介する。	

【関連科目】	
「保育・教育基礎研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」「保育内容に関する科目全般」 「子どもの理解に関する科目全般」「保育・教職実践演習」	

【受講心得】	
幅広い視野を持つ保育者・教育者を目指す志を持つこと。 チーム力が必要なため責任を持って取り組むこと。	

【備考】			
保育士課程 選択必修			
【学習項目】		担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1	授業概要理解	谷川裕	<学習内容>当授業の目的と内容及び進め方について理解する。 <事前学習>事前に15回分の講義要項（シラバス）に目を通しておく。（0.5時間） <事後学習>取り組み内容および学習内容を整理しておく。（0.5時間）
2	①表現力を高める 課題調査	高口	<学習内容>他己紹介を行うために、知り合いの調査を行う。 <事前学習>取り組み内容および学習内容を整理しておく。（0.5時間） <事後学習>本時の調査内容を振り返る。（1時間）
3	②表現力を高める プレゼンテーション	豊辻	<学習内容>スライド、文章、口頭で課題を発表する。 <事前学習>取り組み内容を予習しておく。（0.5時間） <事後学習>発表方法での気づきを振り返る（1時間）
4	読解力を高める 保育の問題に取り組む	今村	<学習内容>与えられたテーマについてまとめる。 <事前学習>社会問題を1つ読んでくる。（1時間） <事後学習>取り組み内容を振り返る。（0.5時間）
5	ディスカッションの実施	谷川知	<学習内容>テーマの問題を見だし、課題を見いだす。 <事前学習>テーマについて調べておく。（1時間） <事後学習>取り組み内容および学習内容を整理しておく。（0.5時間）
6	文献、資料収集の方法	石橋	<学習内容>課題解決のための参考となる文献等の活用方法 <事前学習>保育問題について調べる。（1時間） <事後学習>取り組み内容および学習内容を整理しておく。（0.5時間）
7	①研究 テーマ設定	全員	<学習内容>関心のある問題に取り組む。 <事前学習>保育問題について調べる。（1時間） <事後学習>テーマ設定に際して再検討しておく。（0.5時間）
8	②研究 課題の設定	全員	<学習内容>チームを組みテーマについてのディスカッションにより課題を設定する。 <事前学習>テーマについての一つ文献をさがす。（1時間） <事後学習>取り組み内容および学習内容を整理しておく。（0.5時間）
9	③研究 仮説設定	全員	<学習内容>テーマにおける仮説を立てる。 <事前学習>文献を読む（1時間） <事後学習>取り組み内容および学習内容を整理しておく。（0.5時間）

1 0	④研究 調査	全員	<学習内容>研究活動の調査に取り組む。 <事前学習>文献を読む（1時間） <事後学習>取り組み内容および学習内容を整理しておく。 （0.5時間）
1 1	⑤研究 調査	全員	<学習内容>研究活動の調査に取り組む。 <事前学習>チーム内で文献を読み合わせる（1時間） <事後学習>取り組み内容および学習内容を整理しておく。 （0.5時間）
1 2	⑥研究 調査	全員	<学習内容>研究活動の調査に取り組む。 <事前学習>研究の進捗状況を確認する（1時間） <事後学習>取り組み内容および学習内容を整理しておく。 （0.5時間）
1 3	⑦研究 結果のまとめ	全員	<学習内容>研究の結果をまとめる。 <事前学習>研究の流れを確認する。（1時間） <事後学習>調査内容を確認する。（0.5時間）
1 4	研究発表	全員	<学習内容>取り組んだ研究について発表する。 <事前学習>発表の準備をする。（1時間） <事後学習>研究発表の振り返りを整理しておく。（0.5時間）
1 5	振り返りとまとめ	全員	<学習内容>自身の研究の改善や他者から得られた知識の整理 <事前学習>研究発表の反省を各振り返る。（0.5時間） <事後学習>当授業での学びを整理し、今後の課題を見いだす。（0.5時間）

科目名		担当代表教員		学年	期別	形態	必選	単位数
絵画・造形		川崎 徳子		2	後期	演習	選択	1
		担当形態	単独	ナンバリング			CE2315	
		担当教員	川崎 徳子					

【キーワード】		【概要】				
1	玩具	子どもが発達に応じて生活や遊びの中でイメージを膨らませながら表現していく際の保育環境の重要性に鑑み、様々な用具、自然・人工の各種素材、手作り玩具など、子どもの遊びを豊かに展開していく物的環境について学ぶ。また、児童文化財（絵本、紙芝居等）を制作し、その特性や影響を理解する。				
2	発達段階					
3	物的環境					
4	絵本					
5	紙芝居					
【到達目標】						
1. 材料・用具を適切に使用し、遊具・玩具の制作ができる。						
2. 子どもの発達段階を想定した工夫ができる。						
3. 子どもの興味・関心を考えた表現媒体の制作ができる。						
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】			関連性			
【知識・理解・技能】						
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。						
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。						
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。			○			
【思考・判断・表現】						
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。						
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。						
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。			○			
【関心・意欲・態度】						
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。						
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。			○			
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。						
【成績評価の方法】						
成績指標	表現	技術	受講態度	合計		
評価割合（％）	50	30	20	100		
【成績評価の基準】						
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0
【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】						
課題（作品含む）やレポートなどは次回講義で説明を加え、コメントを入れて返却する。						
【教科書】						
なし						
【参考書・参考資料等】						
『幼稚園教育要領解説』 文部科学省（フレーベル館）						
『保育所保育指針解説書』 厚生労働省（フレーベル館）						
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 内閣府他（フレーベル館）						
【関連科目】						
「子どもと表現」「保育内容（造形表現）」						
【受講心得】						
意欲的に参加、制作すること。						

【備考】 保育士課程 選択必修			
【学習項目】		担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1	発達段階を踏まえた手作り玩具の制作①		<学習内容>企画・アイディアスケッチ <事前学習>事前に講義要項に目を通しておく。（30分） <事後学習>授業内容を記録し、振り返る。（30分）
2	発達段階を踏まえた手作り玩具の制作②		<学習内容>使用する材料の選択・試作 <事前学習>材料や題材の事前研究を行う。（30分） <事後学習>授業内容を記録し、振り返る。（30分）
3	発達段階を踏まえた手作り玩具の制作③		<学習内容>アイディアの再考 <事前学習>材料や題材の事前研究を行う。（30分） <事後学習>授業内容を記録し、振り返る。（30分）
4	発達段階を踏まえた手作り玩具の制作④		<学習内容>制作 <事前学習>材料や題材の事前研究を行う。（30分） <事後学習>授業内容を記録し、振り返る。（30分）
5	発達段階を踏まえた手作り玩具の制作⑤		<学習内容>制作 <事前学習>材料や題材の事前研究を行う。（30分） <事後学習>授業内容を記録し、振り返る。（30分）
6	発達段階を踏まえた手作り玩具の制作⑥		<学習内容>子どもの遊びの展開を想定しての互いの講評 <事前学習>材料や題材の事前研究を行う。（30分） <事後学習>授業内容を記録し、振り返る。（30分）
7	発達段階を踏まえた手作り玩具の実演		<学習内容>子どもの遊びを通じた考察 <事前学習>材料や題材の事前研究を行う。（30分） <事後学習>授業内容を記録し、振り返る。（30分）
8	大型絵本/紙芝居の制作①		<学習内容>制作方法の基本的理解 <事前学習>材料や題材の事前研究を行う。（30分） <事後学習>授業内容を記録し、振り返る。（30分）
9	大型絵本/紙芝居の制作②		<学習内容>子どもの興味を考え、シナリオ作成 <事前学習>材料や題材の事前研究を行う。（30分） <事後学習>授業内容を記録し、振り返る。（30分）
10	大型絵本/紙芝居の制作③		<学習内容>絵割り <事前学習>材料や題材の事前研究を行う。（30分） <事後学習>授業内容を記録し、振り返る。（30分）
11	大型絵本/紙芝居の制作④		<学習内容>ミニチュア制作 <事前学習>材料や題材の事前研究を行う。（30分） <事後学習>授業内容を記録し、振り返る。（30分）
12	大型絵本/紙芝居の制作⑤		<学習内容>本制作・台詞 <事前学習>材料や題材の事前研究を行う。（30分） <事後学習>授業内容を記録し、振り返る。（30分）
13	大型絵本/紙芝居の制作⑥		<学習内容>本制作・演出ノート <事前学習>材料や題材の事前研究を行う。（30分） <事後学習>授業内容を記録し、振り返る。（30分）

1 4	大型絵本/紙芝居の制作⑦		<学習内容>本制作・演出ノート <事前学習>材料や題材の事前研究を行う。(30分) <事後学習>授業内容を記録し、振り返る。(30分)
1 5	大型絵本/紙芝居の実演		<学習内容>実践を踏まえての協議・改善 <事前学習>材料や題材の事前研究を行う。(30分) <事後学習>授業内容を記録し、振り返る。(30分)

科目名		担当代表教員		学年	期別	形態	必選	単位数
ピアヘルピングの基礎		砥上 あゆみ		2	後期	講義	選択	1
		担当形態	オムニバス	ナンバリング			CE2403	
		担当教員	砥上あゆみ、豊辻晴香					

【キーワード】	【概要】
1 ピアヘルピング	仲間同士がお互いを援助し合うピアヘルピングの知識や心構えを身につけ、ピアヘルピングを実践するための力を習得する。それにあたり、カウンセリングの基礎（歴史・理論・技法）について学び、さらにカウンセリングスキルを習得する。
2 カウンセリングの知識	
3 カウンセリングスキル	
4 青年期	
5 パーソナリティ	

【到達目標】	
1. カウンセリングの基礎的な理論や技法を説明することができる。	
2. ピアヘルピングに関する基礎的な知識・スキルを説明することができる。	
3. ピアヘルピングに必要なスキルを実行することができる。	

【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】		関連性
【知識・理解・技能】		
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。		
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。		
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。		
【思考・判断・表現】		
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。		○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。		
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。		
【関心・意欲・態度】		
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。		
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。		○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。		○

【成績評価の方法】				
成績指標	定期試験	受講への取り組み	小テスト	合計
評価割合（％）	40	30	30	100

【成績評価の基準】						
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0

【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】	
小テストおよび試験終了後には、試験の解説を行う。	

【教科書】	
『ピアヘルパー ハンドブック』日本教育カウンセラー協会編 図書文化社	

【参考書・参考資料等】	
授業時にプリントを配布。また、参考文献等は授業時に紹介する。	

【関連科目】	
「相談援助」	

【受講心得】 ・授業にははじめに取り組むこと。 ・受講にあたっては事前事後の学習を行い、グループ演習やロールプレイには積極的に取り組むこと。		
【備考】 ピアヘルパー資格 選択必修		
【学習項目】	担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1 オリエンテーション カウンセリングの歴史とピアヘルパーの意義	砥上	<学習内容>授業の進め方の説明と、ピアヘルパーの概要について説明する。 <事前学習>事前に教科書の第1章-1を読んでおく。（30分） <事後学習>教科書や授業内で配布したプリントをもとに、内容を再確認し、疑問点があれば次回授業で発表する。（1時間）
2 ピアヘルピングのプロセスとパーソナリティ	豊辻	<学習内容>ピアヘルピングの基礎となるカウンセリングの歴史等について説明する。 <事前学習>事前に教科書の第1章-2を読んでおく。（1時間） <事後学習>教科書や授業内で配布したプリントをもとに、内容を再確認し、疑問点があれば次回授業で発表する。（1時間）
3 ピアヘルピングのためのカウンセリングスキル① 言語・非言語的スキル *小テスト	砥上	<学習内容>カウンセリングの具体的な技法について説明、実践する。 <事前学習>事前に教科書の第2章-1～3を読んでおく。（1時間） <事後学習>教科書や授業内で配布したプリントをもとに、内容を再確認し、疑問点があれば次回授業で発表する。（1時間）
4 ピアヘルピングのためのカウンセリングスキル② ヘルピング時に生じ得る問題への対処法	豊辻	<学習内容>カウンセリング時に生じる問題への具体的な対応について説明、実践する。 <事前学習>事前に教科書の第2章・4～7を読んでおく。（1時間） <事後学習>教科書や授業内で配布したプリントをもとに、内容を再確認し、疑問点があれば次回授業で発表する。（1時間）
5 ケーススタディ *小テスト	砥上	<学習内容>これまで学んできたカウンセリングのスキルを用いて、ピアヘルピングを実践してみる。 <事前学習>事前に教科書の第2章と授業内で配布したプリントを読み返しておく。（1時間） <事後学習>教科書や授業内で配布したプリントをもとに、内容を再確認し、疑問点があれば次回授業で発表する。（1時間）
6 青年期の課題とピアヘルパーの留意点 ～学業・進路・友人領域～	豊辻	<学習内容>青年期の課題とピアヘルピングの活用について説明する。 <事前学習>事前に教科書の第3章-1～4を読んでおく。（1時間） <事後学習>教科書や授業内で配布したプリントをもとに、内容を再確認し、疑問点があれば次回授業で発表する。（1時間）
7 青年期の課題とピアヘルパーの留意点 ～グループ・関係修復・心理領域～ *小テスト	砥上	<学習内容>青年期の課題とピアヘルピングの活用について説明する。 <事前学習>事前に教科書の第3章-5～7を読んでおく。（1時間） <事後学習>教科書や授業内で配布したプリントをもとに、内容を再確認し、疑問点があれば次回授業で発表する。（1時間）
8 まとめ	豊辻	<学習内容>これまで授業で扱ってきた内容を振り返る。また試験に向けての対策も行う。 <事前学習>授業内で配布した資料を読み返す。（1時間） <事後学習>教科書や授業内で配布したプリントをもとに、内容を再確認する。（1時間）
9 定期試験	砥上	